加美郡3町合併に伴う住民満足度向上への提言
～彩食弦美タウン構想～

薬莱山

平成１5年度

宮城大学顧客満足ゼミ

市町村合併班

はじめに

昨今、構造改革の波を受けて、各地の自治体で盛んに市町村合併の議論がなされている。宮城県でも平成15年度に小野田・中新田・宮崎の加美郡3町が合併し、加美町が誕生した。

宮城大学顧客満足ゼミでは、市町村合併班を組織し、住民の満足度という視点から、加美町の調査を実施した。市町村合併は、地方分権や、財政問題といった不透明なよく実態の掴めない言葉で議論されている傾向にあるように思われる。しかし、そもそも合併は、住民サービス向上の為に行われるはずのものである。その自治体の住民にとって、合併が満足度を向上させるものでなければならないと我々は確信している。

この調査が、加美町や今後合併する自治体の町づくり、また、住民にとって有益なものになることを、心から望む。

宮城大学　顧客満足ゼミ
市町村合併班　一同

目次

目次 P 1
提言書ダイジェスト P 2
調査地域概要 P 3
合併に至った背景 P 7
住民アンケート結果を受けて P 10

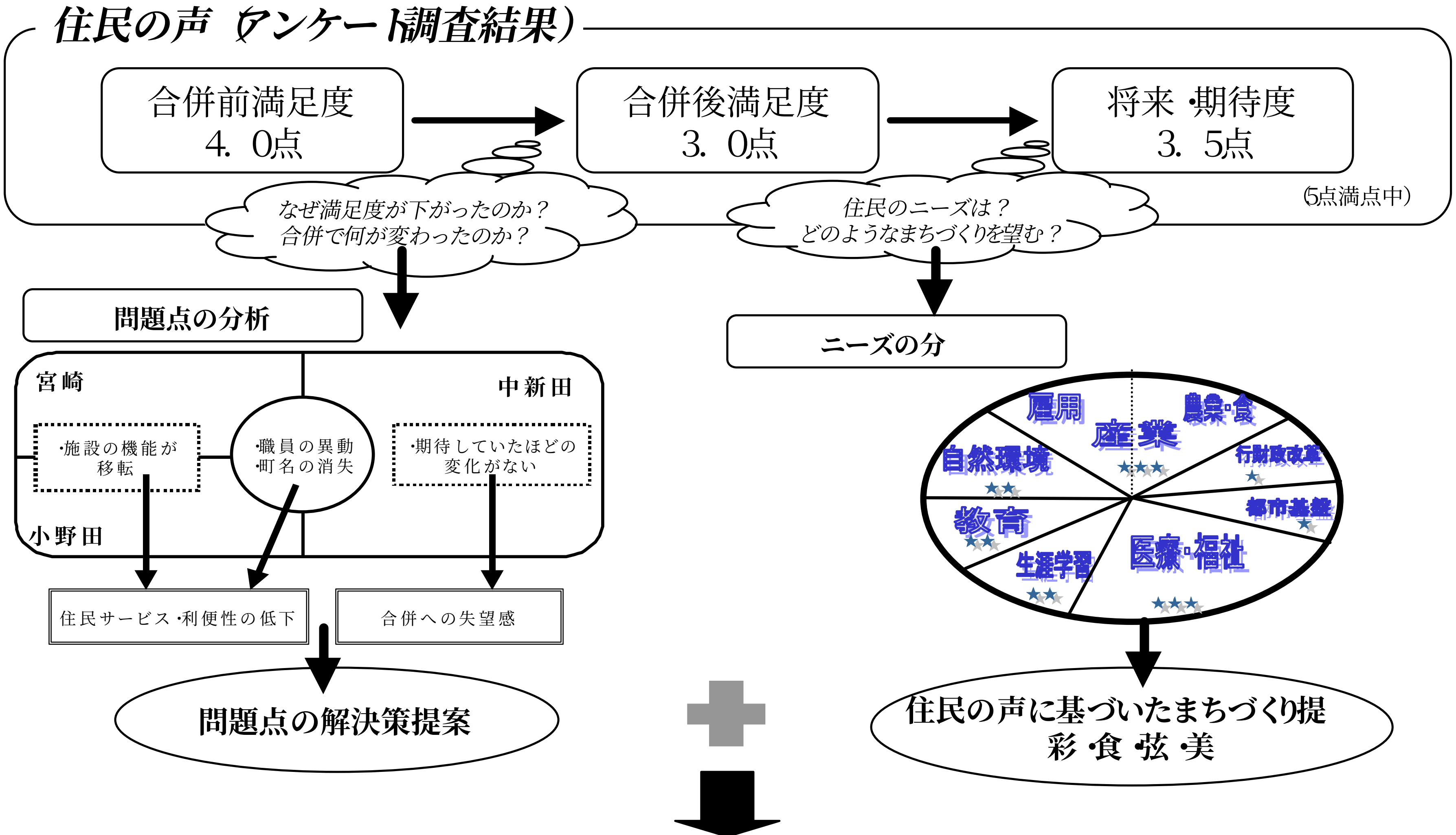
合併による問題点の解決策
- 解決策全体図 P 19
- 各問題点に対する提案 P 20

住民のニーズをもとにした提案
- 提案全体図 P 27
- 各ニーズに対する提案 P 28

おわりに P 97

資料データ
- 調査方法 P 45
- 分析方法 P 47
- アンケート用紙原本 P 49
- 意見マッピング P 51
- グラフ P 89

加美町合併に伴う住民満足度向上への提言
～ダイジェスト版～



住民満足向上
Citizen Satisfaction

調査地域概要

旧3町概要

小野田

人口：8,119人
（男3,978人、女4,141人）

人口密度：36.63 （㎢あたり）

世帯数：2,096世帯

面積：

総数	221.61 ㎢
宅地	2.27
田	20.68
畑	10.04
地沼	0.42
牧草地	0.46
山林	127.85
原野	1.72
その他	58.17

農業の状況：

総農家	945戸
農家人口	4,651人
農業従事者数	2,566人

中新田

人口：13,924人
（男6,801人、女7,123人）

人口密度：226.62 （㎢あたり）

世帯数：4,113世帯

面積：

総数	61.44 ㎢
宅地	4.88
田	15.80
畑	4.92
地沼	0.05
牧草地	0.27
山林	19.21
原野	1.57
その他	14.74

農業の状況：

総農家	1,000戸
農家人口	4,767人
農業従事者数	2,839人

宮崎

人口：6,246人
（男3,047人、女3,199人）

人口密度：35.13 （㎢あたり）

世帯数：1,574世帯

面積：

総数	177.77 ㎢
宅地	2.07
田	17.89
畑	3.69
地沼	0.03
牧草地	0.03
山林	70.45
原野	1.74
その他	81.87

農業の状況：

総農家	853戸
農家人口	4,246人
農業従事者数	2,566人

旧3町概要

小野田

キャッチフレーズ：
広がるみどりキラめく自然

象徴：町花　ミズバショウ
町木　ブナ
町鳥　ヤマドリ
町魚　アユ

観光名所：薬らい山
薬師の湯
漆沢ダム
荒沢の滝
松本家住宅　等

特産品：しいたけ、山菜、
イワナ、高冷地大根
ヤマメ、もち菓子　等

年中行事：薬らい神社例大祭
飯豊神社例祭
船形山山開き
ふれあいやくらいまつり
やくらいべごっこまつり
マラソン大会

中新田

キャッチフレーズ：
バッハホールとあゆの里

象徴：町花　ツツジ
町木　ヤナギ
町魚　アユ

観光名所：東北陶磁文化館
縄文芸術館
あゆの里公園
あゆの里物産館
城生遺跡　等

特産品：清酒、手打ち包丁
漬物、茸、ネギ、味噌
乾麺、菓子　等

年中行事：初午祭り・火伏せの虎舞
夏祭り・あゆの里祭り
秋祭り

宮崎

キャッチフレーズ：
陶芸の里　みやざき

象徴：町花　ハギ
町木　アカマツ
町鳥　キジ

観光名所：陶芸の里
ゆ～らんど
魚取沼の鉄魚
熊野神社獅子舞　等

特産品：はとむぎ入陶芸めん
陶芸がゆ、しいたけ
山菜　等

年中行事：柳沢の焼け八幡
切込のすみつけ
小泉の水祝儀
熊野神社例祭
陶芸の里春まつり・秋まつり

加美町概要

人口：28,289人（男13,826人、女14,463人）

人口密度：61.38（㎢あたり）

世帯数：7,783世帯

人口比率：
0～14歳：13.2%
15～24歳：11.1%
25～64歳：48.8%
65歳～：27.0%

面積：

総数	460.82 ㎢
宅地	9.22
田	54.37
畑	18.65
地沼	0.5
牧草地	0.76
山林	217.51
原野	5.03
その他	154.78

産業比率：
1次産業：17.5%
2次産業：39.8%
3次産業：42.6%

農業の状況：

総農家	2,798戸
農家人口	13,664人
農業従事者数	8,189人

キャッチフレーズ：美しい自然、こころやさしい人々、活力ある生活文化のまち・加美

象徴：旧3町を合わせたもの

観光名所：旧3町を合わせたもの

特産品：旧3町を合わせたもの

年中行事：旧3町を合わせたもの

合併に至った背景

3. 合併にいたる背景

総務省の方針

現在、政府では基礎自治体である市町村合併を推進させる政策をとっている。具体的な政策として、自主合併を行う市町村が、地方交付税の激変緩和措置、合併特例債の発行を認める等の優遇が受けられる「市町村の合併の特例に関する法律（合併特例法）」が平成17年までの時限立法として施行された。

総務省が作成した資料によれば合併を推進する理由として、「合併により市町村の行財政を効率化し、行財政基盤を強化する必要があるため」としている。そして、行財政基盤の強化を図らなければならない理由として以下の3点を挙げている。

Ⅰ、地方分権により、市町村の役割が重要になっていること

「地方分権一括法」の施行により、かつてないほど地方分権が進んでいる。福祉、保険、環境、都市設計といった住民に身近な事務を担う市町村の役割はこれまで以上に重要になってくる事が予想される為

Ⅱ、本格的な少子高齢化に対処できる市町村が求められていること

少子高齢化社会の到来とともに、福祉サービスの内容が高度化、多様化していくなかで、そのサービス水準を確保することが求められている為

Ⅲ、広域的な行政需要が増えてきていること

自動車の普及やインターネットの普及などによる人々の日常生活圏の拡大に伴い、交通網の整備、情報ネットワークの整備など市町村の区分を超えた行政需要が増大している為

そして、総務省では合併のメリットとして、住民の利便性が向上すること、行政サービスが多様化・高度化されること、広域的に街作りができること、などをあげている。

総務省が合併による行財政の効率化を勧める背景としては、国、地方合わせて700兆円の財政赤字、地方交付税特別会計の47兆円の赤字など厳しい財政状況がある。

加美町のケース

宮城県では、加美町が県内で初めての合併ケースとなった。

加美郡（中新田町・小野田町・宮崎町・色麻町）は宮城県の北西部に位置し、仙台市から約40キロメートルの位置にある。奥羽山脈を背に、鳴瀬川、田川などが貫流している。また、広大な扇状形に開けた平坦地は、日本有数の穀物地帯である大崎耕土の一角をなしている。

この加美郡4町の合併による新市誕生を目指し、法定の「加美郡4町合併協議会」が2001年1月に設置され、新市のあり方について議論されていった。そして、2002年8月には新市名が「加美市」と決定、順調に進むかに見えた。

しかし2002年9月、合併後の新市庁舎建設に対して、その必要性や建設位置に色麻町が異議を唱え、この新市庁舎の建設計画は凍結された。
さらに、2002年10月に、色麻町が町民を対象に独自に実施した住民意向調査で、合併への賛成が回答全体の3割程度しかなかったことを受け、色麻町長が「合併は時期尚早である」と判断し、合併の延期を協議会に申し入れたが、他3町はこれを拒否した。
このため色麻町は合併協議会から離脱、市への昇格条件である人口3万人が達成出来ない形となり、合併後の自治体名は「加美町」へと変更された。そして、2003年4月に3町は合併、「加美町」が誕生した。

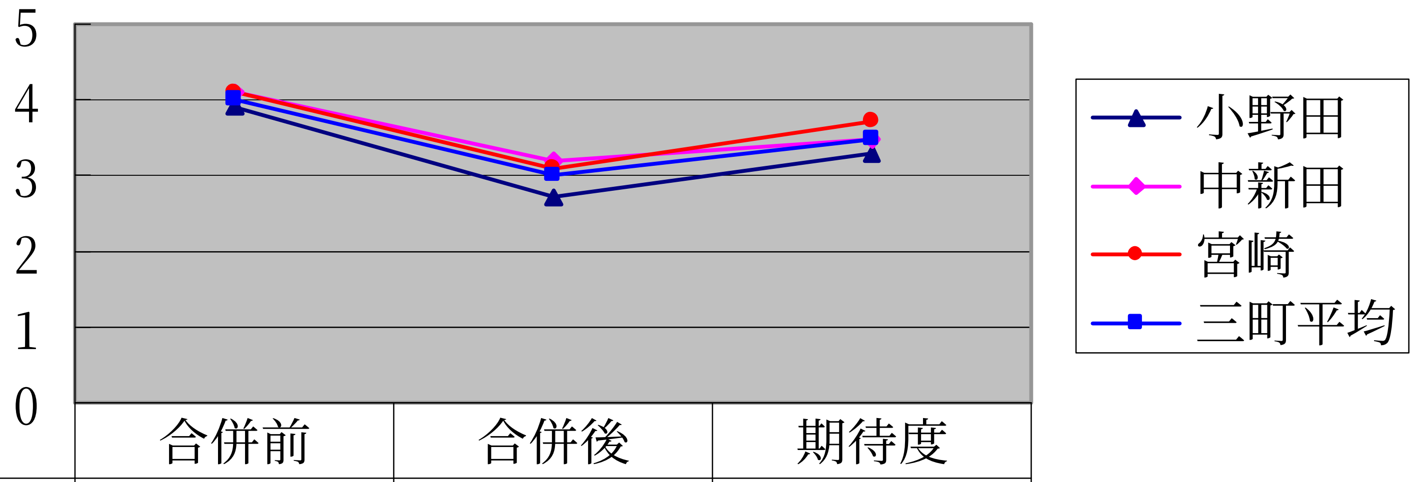
顧客満足ゼミでは加美郡3町の合併について、加美町の星明朗町長（旧中新田町長）にお話を伺いに行った。

そのお話の中で、今回進められた加美郡4町の合併は住民主導によるものではなく、行政主導で行われたものであるということがわかった。ただし、その過程では座談会形式による行政側から住民に対しての説明会が100回余りも行われたことも同時におっしゃっていた。
また、総務省の市町村合併推進の説明の中でも強調されていた、行財政基盤の強化が今回の合併においても背景にあることが判った。星町長によると、旧中新田町をはじめ合併前の各町においても、行政コストの削減などの手を打ってはいたそうである。しかし、今後進められる三位一体の改革の過程で地方交付税交付金以前より減るといったケースになると、財政破綻の恐れもあると判断、加美郡3町の合併によって合併特例法に定める優遇措置を受けるほうが得策と判断したという。

しかし、議員定数の問題、職員の能力向上、住民参加のまちづくりの体制整備、色麻町の離脱余波など解決しなければならないさまざまな問題を抱えているのが現状である。

住民アンケート結果を受けて

満足度・期待値平均推移

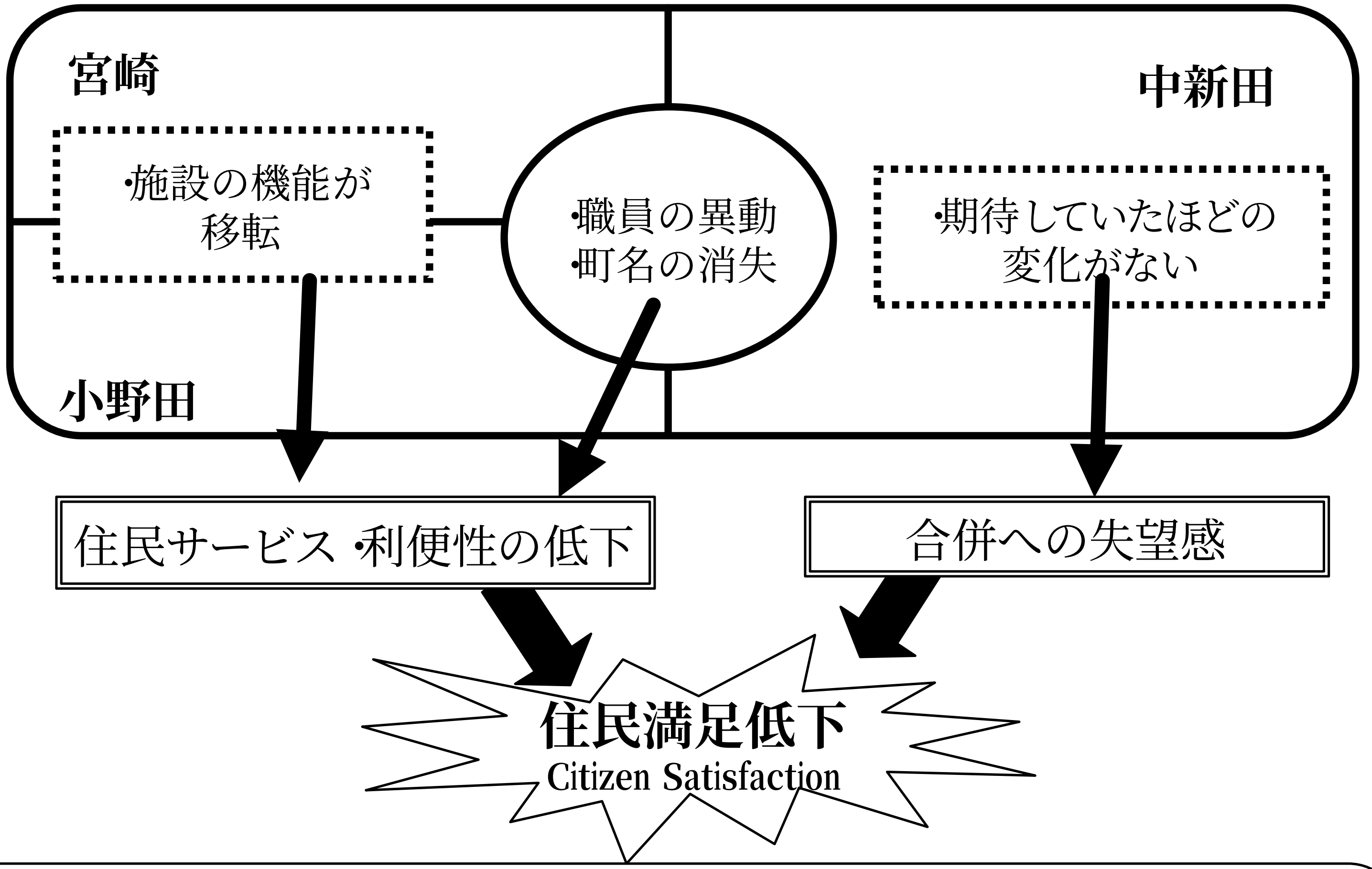


	合併前	合併後	期待度
小野田	3.9	2.7	3.3
中新田	4.1	3.2	3.5
宮崎	4.1	3.1	3.7
三町平均	4.0	3.0	3.5

上の表は各町の合併前・合併後の町に対する満足度と、これからの町に対する期待度を5点満点で評価してもらいまとめたものである。

総合的な特徴として、三町とも合併により大幅に満足度が低下している一方で、これからの加美町に対して合併直後よりも良くなるという期待をもっている傾向がみられた。

加美町の合併による問題点



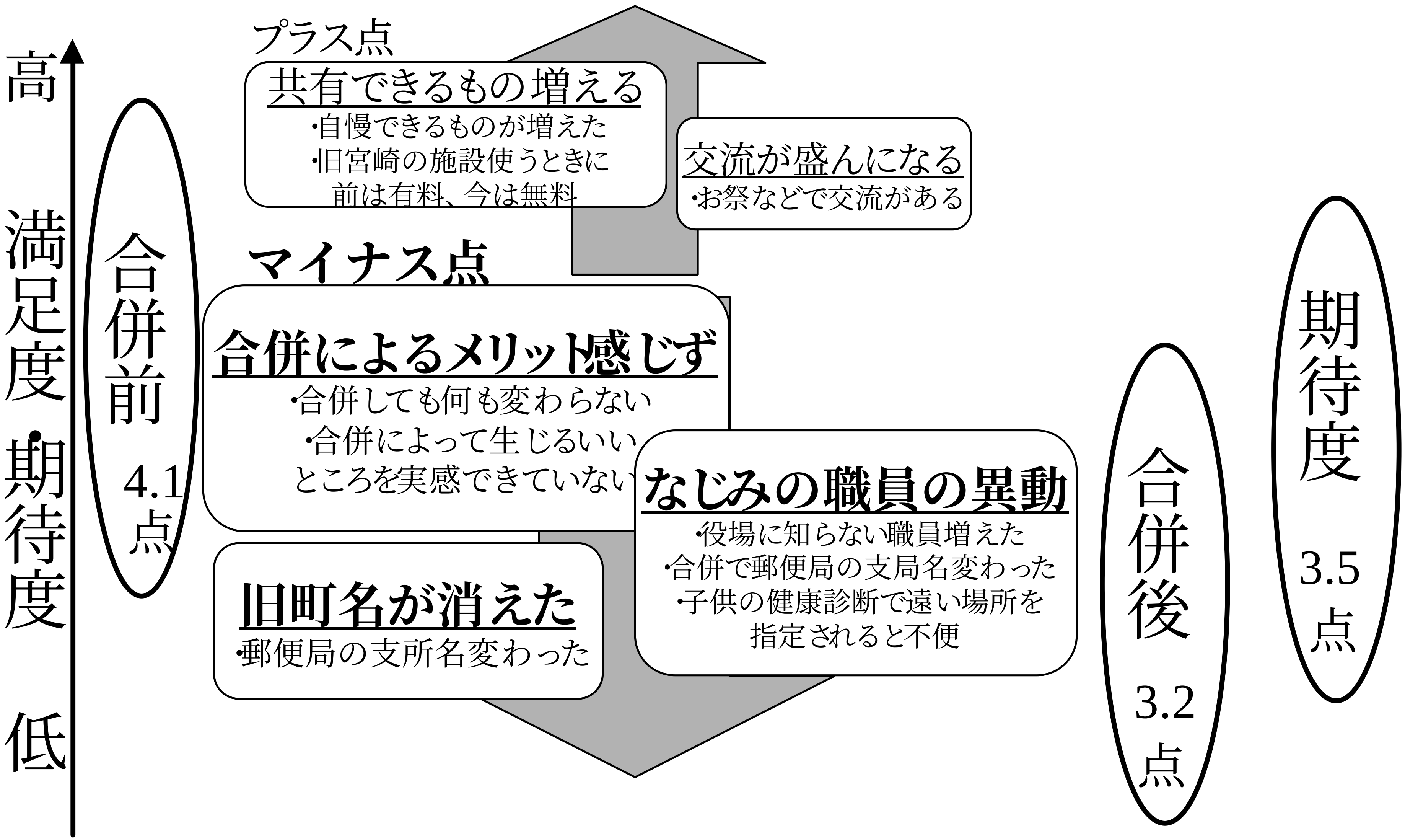
上の図解は、各町の合併によって明らかになった問題点を示している。問題点は三つに分類することができる。

① 旧三町に共通した問題：職員の異動」 町名の消失」
② 中新田固有の問題 ：期待していたほどの変化がない」
③ 小野田･宮崎に共通した問題：施設の機能が移転」

以上の問題はいずれも、住民サービス･利便性の低下もしくは合併への失望感が要因となって、おり結果として満足度の低下を招いている。

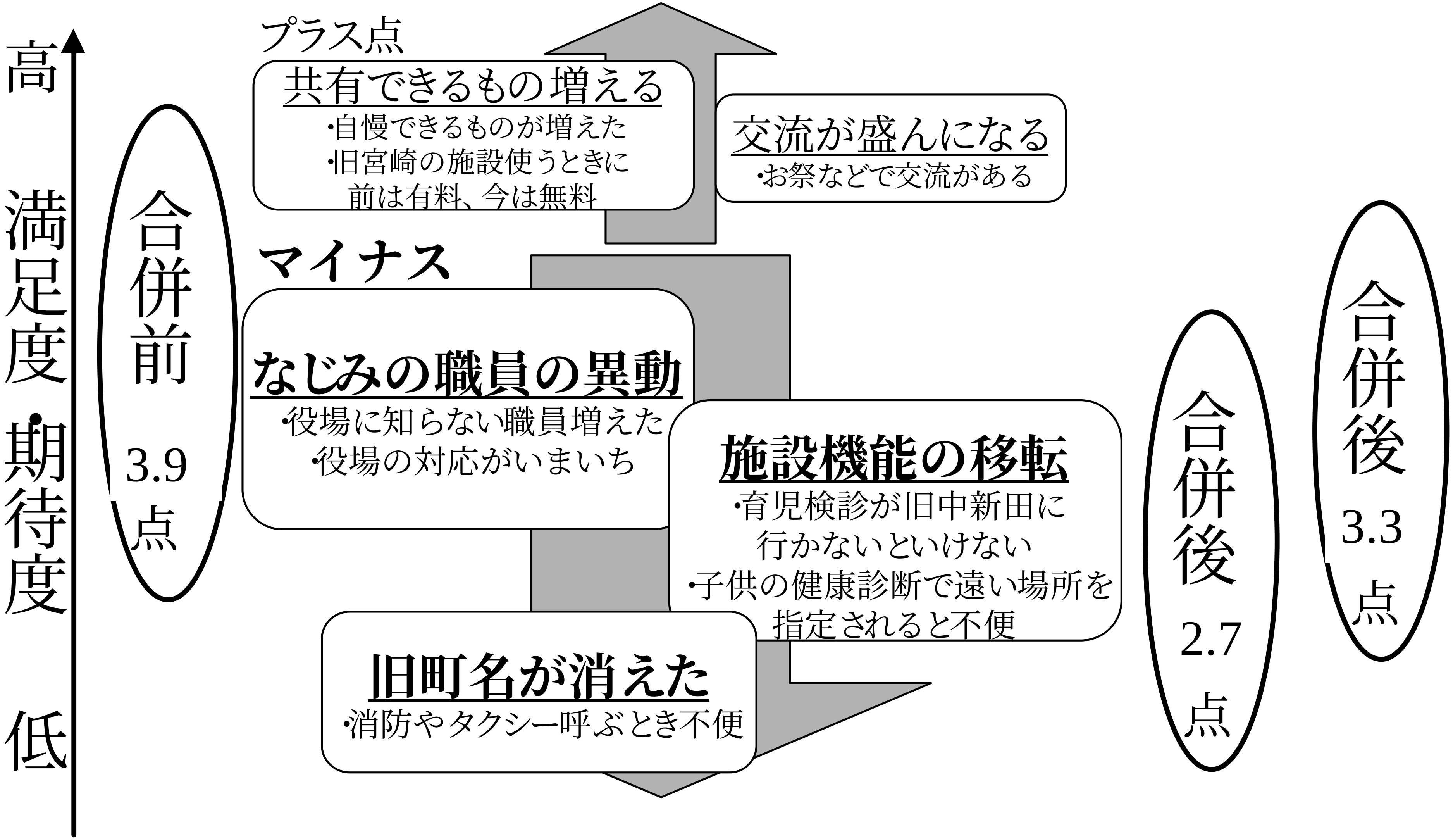
旧中新田　合併前後での比較

●他の 2町と比べ、生活への変化ない



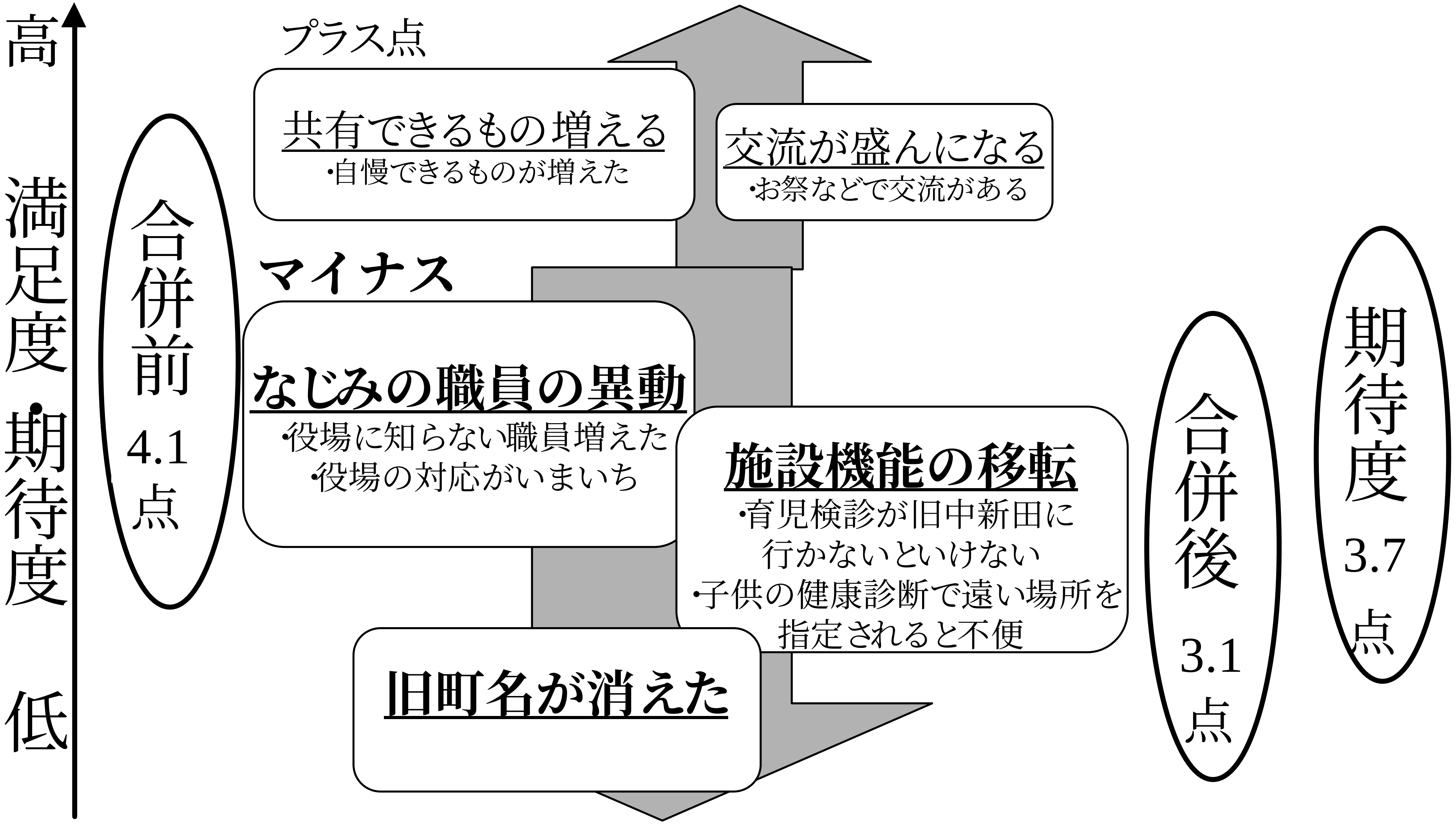
旧小野田　合併前後での比較

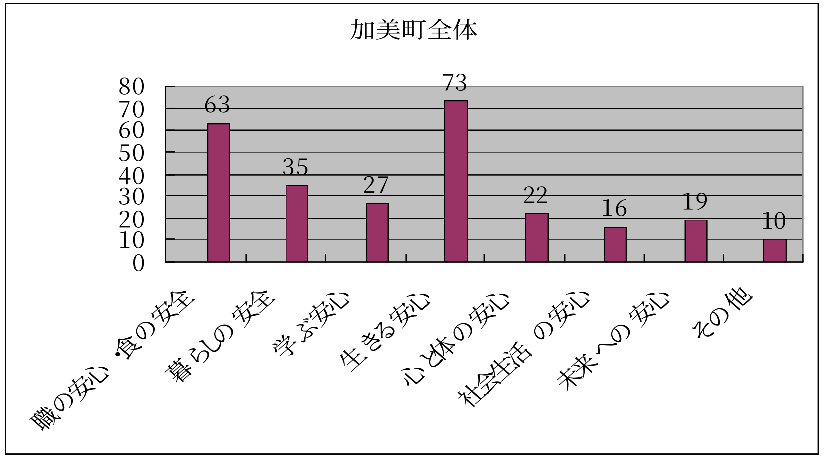
●合併による悪影響大きい

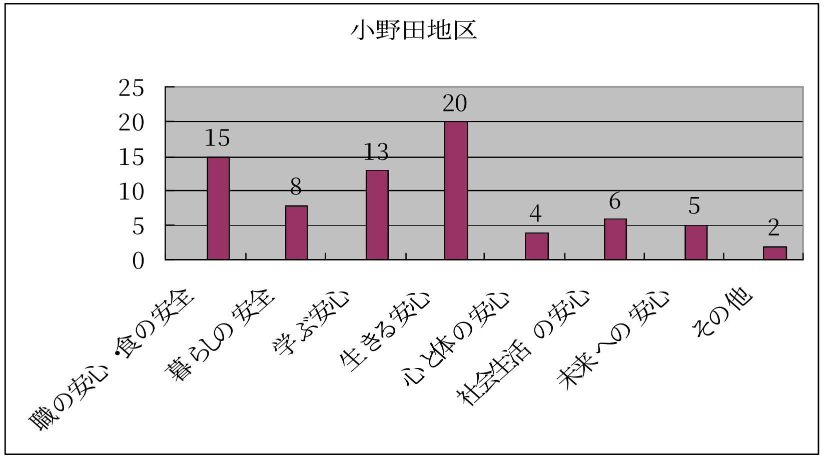


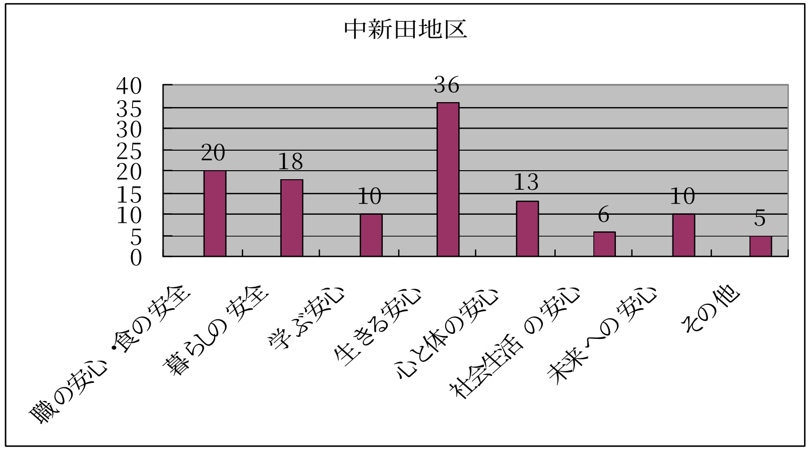
旧宮崎　合併前後での比較

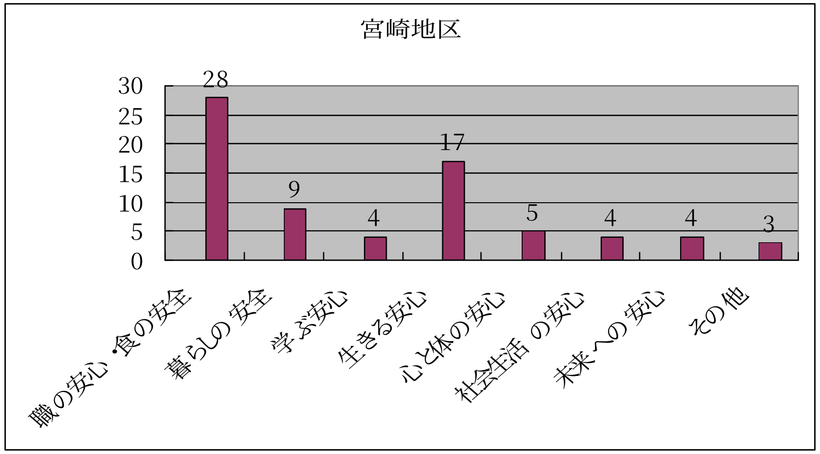
●旧小野田同様、合併による悪影響大きい





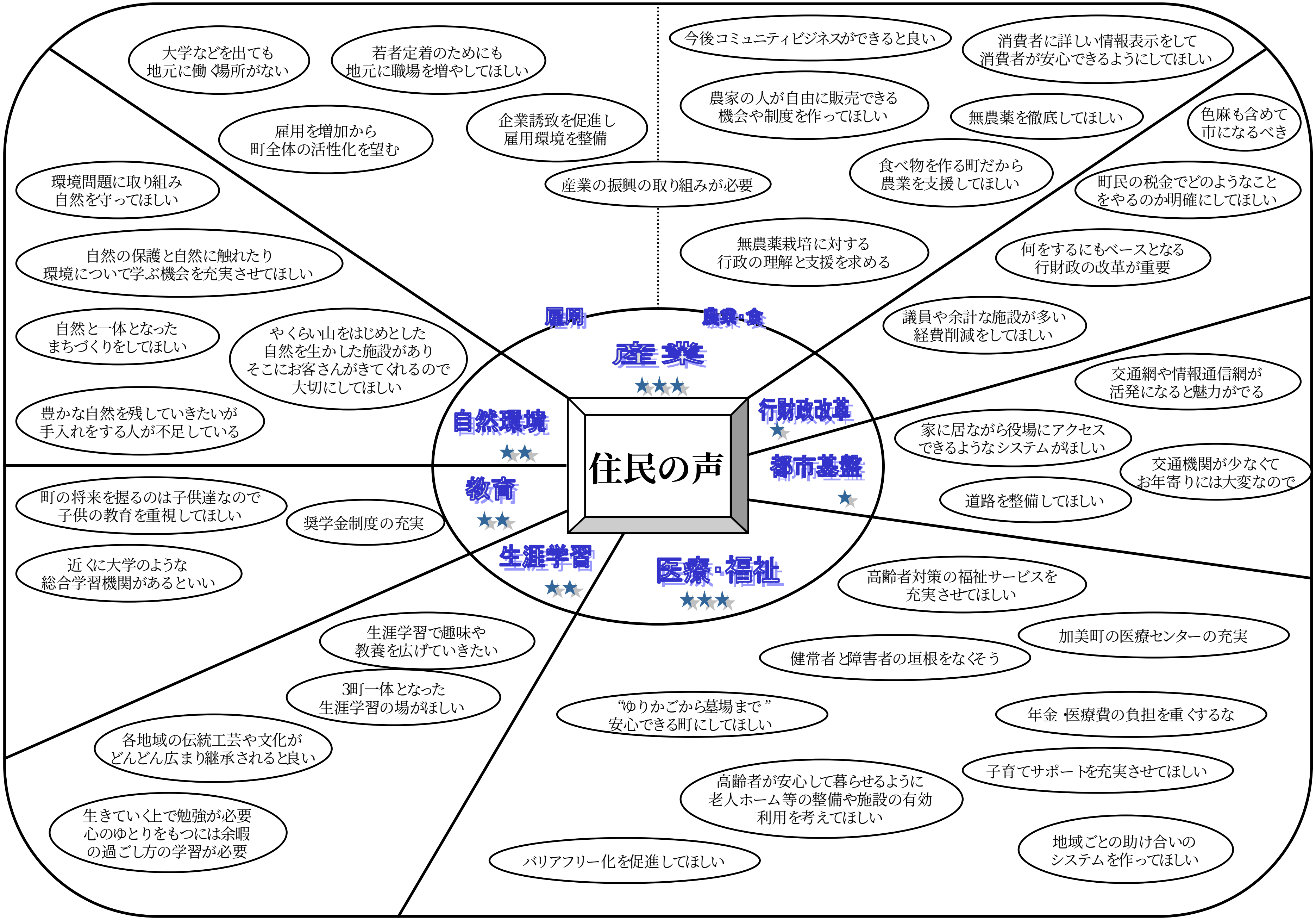






加美町は以上の7つの安心を政策の目標としている。この表は、この7つのうち何を優先して欲しいかという質問に対し得られた結果である。全体としては、職と食の安心と生きる安心を重要視して欲しいという傾向が見られた。

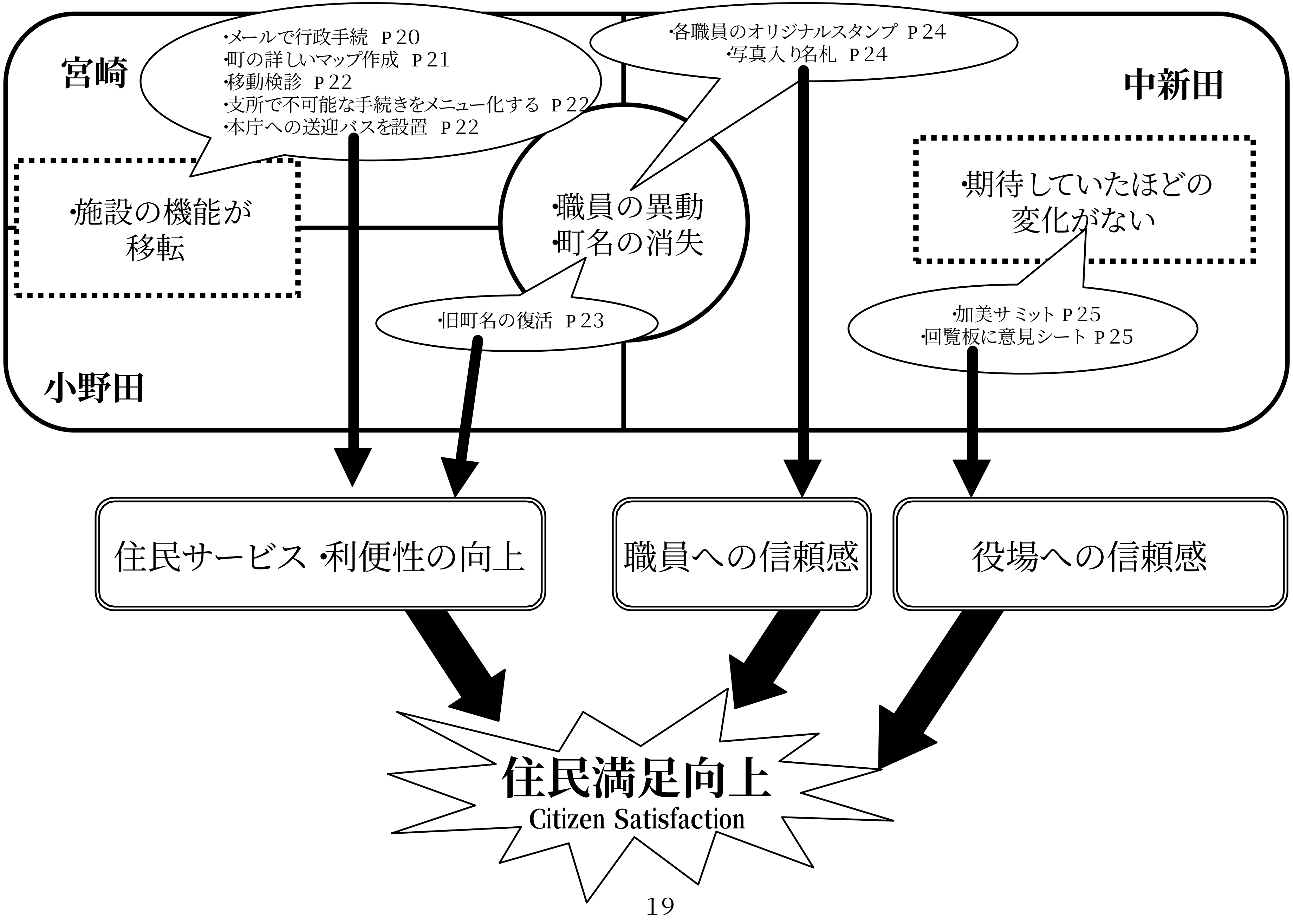
住民の声　ニーズマップ



住民の声
産業
雇用
農業・食
★★★
自然環境
★★
教育
★★
生涯学習
★★
医療・福祉
★★★
行財政改革
★
都市基盤
★
大学などを出ても地元に働く場所がない
若者定着のためにも地元に職場を増やしてほしい
雇用を増加から町全体の活性化を望む
企業誘致を促進し雇用環境を整備
産業の振興の取り組みが必要
今後コミュニティビジネスができると良い
消費者に詳しい情報表示をして消費者が安心できるようにしてほしい
農家の人が自由に販売できる機会や制度を作ってほしい
無農薬を徹底してほしい
色麻も含めて市になるべき
食べ物を作る町だから農業を支援してほしい
町民の税金でどのようなことをやるのか明確にしてほしい
無農薬栽培に対する行政の理解と支援を求める
何をするにもベースとなる行財政の改革が重要
議員や余計な施設が多い経費削減をしてほしい
交通網や情報通信網が活発になると魅力がでる
家に居ながら役場にアクセスできるようなシステムがほしい
交通機関が少なくてお年寄りには大変なので
道路を整備してほしい
環境問題に取り組み自然を守ってほしい
自然の保護と自然に触れたり環境について学ぶ機会を充実させてほしい
自然と一体となったまちづくりをしてほしい
やくらい山をはじめとした自然を生かした施設がありそこにお客さんがきてくれるので大切にしてほしい
豊かな自然を残していきたいが手入れをする人が不足している
町の将来を握るのは子供達なので子供の教育を重視してほしい
奨学金制度の充実
近くに大学のような総合学習機関があるといい
生涯学習で趣味や教養を広げていきたい
3町一体となった生涯学習の場がほしい
各地域の伝統工芸や文化がどんどん広まり継承されると良い
生きていく上で勉強が必要心のゆとりをもつには余暇の過ごし方の学習が必要
高齢者対策の福祉サービスを充実させてほしい
加美町の医療センターの充実
健常者と障害者の垣根をなくそう
“ゆりかごから墓場まで”安心できる町にしてほしい
年金 医療費の負担を重くするな
子育てサポートを充実させてほしい
高齢者が安心して暮らせるように老人ホーム等の整備や施設の有効利用を考えてほしい
地域ごとの助け合いのシステムを作ってほしい
バリアフリー化を促進してほしい

合併による問題点の解決策

加美町の合併による問題点への対応



インターネット利用による利便性向上

支所の機能が不足しており簡単な業務でも本庁に行かなくてはならない

提案

仙台や古川に行かなくては生活が不便

本庁・各支所に住民が利用可能なパソコン設置

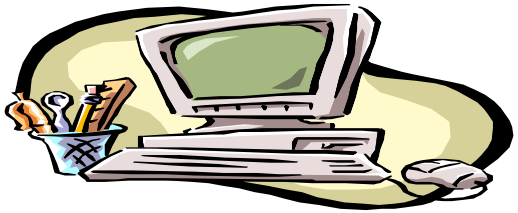
・パソコンの講座を開き住民のインターネット利用を促進する。

・住民個人のパスワード、メールアドレスを設定し個人的利用を可能にする。

・パソコンに慣れていない人に対しては職員が利用の補助・代行をする。

メールで行政手続

庁舎に設置したパソコンを利用して電子メールや町のホームページを利用して簡単な行政手続を行えるようにする。



インターネット買い物サポート

通販などでの商品の購入を役場が代行する。高齢者はインターネットや通販などになじみがない人が多いと思われるので役場の職員が代行することが望ましい。

町の利便性の低下

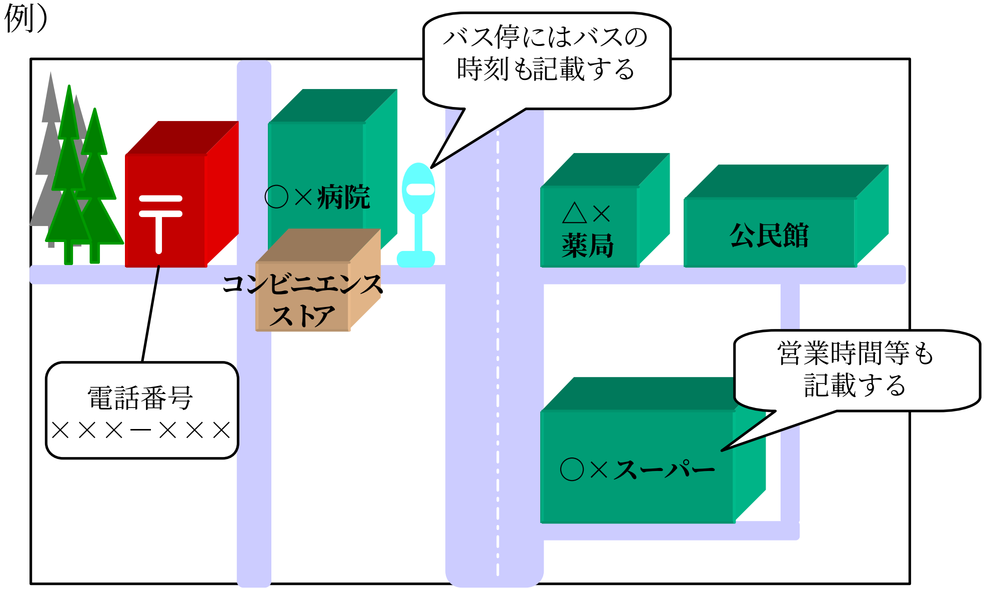
薬局がなくなって不便

町が大きくなりすぎた

提案

町の詳しいマップを作成する

住民が他の地区の商業施設や郵便局、病院など加美町全体のことが詳しく分かるような地図を作成する。
これは行政施設だけでなく、コンビニエンスストアやスーパーなど住民の生活に密着した情報を掲載し、連絡先の電話番号も記載する。
また半年に一度は更新することが望ましい。
例）



庁舎の移転

支所ではできないサービスがある。

提案

車がないと本庁にいくのが大変。

支所で不可能な手続きをメニュー化する

・本庁にいかなくてはならないという不便さを訴える住民が、目立つ。何が支所でできないのか把握できていないと考えられる。そこで、支所でできないサービスをまとめ、住民にわかりやすく、メニューとして配布する。

例）支所では以下の手続きはできません

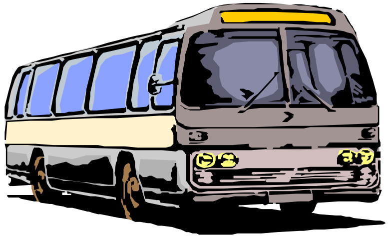
予防接種
育児検診
成人式等

本庁への送迎バスを設置

・移動手段がない住民にとって、今まで地元でできたサービスができなくなるのでは、公平性に欠ける。支所で用事を果たせなかった住民を、町がバスなどを用いて、本庁まで送迎する。

移動検診

検診で遠くの場所を指定され不便であるという住民がいる。その住民の不満を解消するため、町内各所へ医師が検診のために訪問し住民の健康診断をする。定期的な実施が必要である。



旧町名の消失

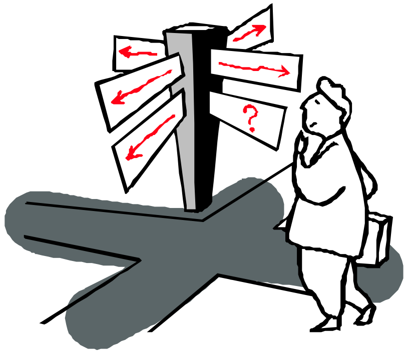
救急車などを呼ぶとき不便

提案

古い住所のほうがわかりやすい

旧町名の復活

「加美町小野田字～」、「加美町宮崎字～」、「加美町中新田字～」
など旧町名を住所の中に復活させ、住民の利便性を高める。



馴染みの職員の異動

中新田本庁の人に気軽に
相談することが出来ない

顔見知りの職員が減り
知らない職員が増えた

提　案

各職員のオリジナルスタンプの活用

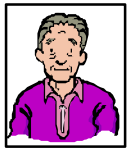
職員の名前が入っており、また職員の考えた一言、あるいは似顔絵など各職員が考えたオリジナルのイラストが入ったオリジナルスタンプを（印鑑ではない）を職員1人1人が持ち、住民にパンフレット等を渡す際に押すようにする

例）

写真入りの名札をつける

職員は自分の氏名、写真の入った名札を身に付ける。個人を覚えてもらえるような一言を書き加えるなど工夫をすることが望ましい

例）



加美町役場　　一課

顧客　太郎

座右の銘　**一日一善**

住民の方へのメッセージ
『**保険のことでお困りでしたら何でもご相談ください！**』

住民の方に名前を覚えてもらい、互いに親近感を持とう！

住民の意見を取り入れる

町の規模が大きくなり、
意見が届きにくくなった

提　案

町政が遠くなった

加美サミット

3ヶ月に1回程度の割合で各地区の公民館などで座談会形式の住民意見聴取の場を設ける。
その場ではPTA ·商工会 ·町内会等の代表者や公募で集めた住民が会議を行う。そこでの意見を役場に提案し、役場の運営の参考にしてもらう。

回覧板に意見シート

調査の結果から高齢者が多い町や小さな町では、有効な住民間の連絡手段や通知手段として回覧板があげられる。回覧板に家族ごとに自由にコメントできる紙を必ず1枚はさみ、記入してもらう。それを区長さん等を通して役場にあげてもらい、次の回覧板で役場職員の返答を掲載する。

例）回覧板に挟む用紙

佐藤	
高橋	
鈴木	自由コメント欄

住民と役場の意見交換をしよう！

ニーズマップをもとにした提案

住民の声に基づくまちづくり提案

彩

弦

農業を通じた交流
P 29

世代間交流
P 30

住民間交流
P 28

観光を通じた交流
P 32

学術機関との交流
P 31

バッハホールを生かし
バッハを町の名物にする
P 36

バッハホールを生かし
町民がイキイキできる町にする
P 37

フレンドシップ加美
～バラエティに富んだ交流～

バッハタウン加美
～バッハを生かしたまちづくり～

彩･食･弦･美
加美

フードタウン加美
～おいしくて安心できる食の町～

クリーン加美
～美しい心と町並み～

特色ある農産システム
P 33

加美ブランドを創る
P 34

加美ブランドの定着・普及
P 35

加美にちなんだ美しいまちづくり
P38
自然を守りたい
P39

高齢者の力を活かす
P40
安心感・愛着の
持てるまちづくり
P41

住民の健康サポート
P42
生きる安心
P43

食

美

住民間交流

合併して、周辺部は取り残された気分

提案

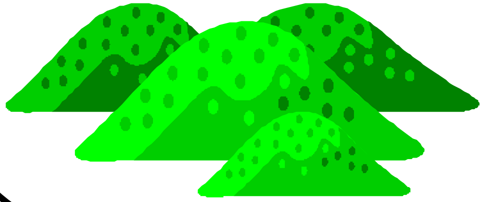
周辺地区にとってのメリットがあまりない

合同総合学習

未来の加美町を担う子供たちが幼稚園や小学校の段階から交友関係を広げることは将来的にも大切なことだと考えられる。

●一日交換留学
小学校間で何人かの生徒を互いに交換留学させそれぞれの小学校で授業や給食をともにすることで友好を深める。

●友情の集いinやくらい
小野田にある『やくらいリゾート』で、3町合同で学校の総合学習として、やくらい探検や野外炊飯・火おこしなどの自然体験をする。



加美リーグ発足

スポーツを通じた交流を行うにあたって"加美リーグ"を発足させる。その際に宮崎にあるスポーツ公園などの施設を試合会場として有効活用する。
仕組みとしてはサッカー、バレー、綱引き、ゲートボールなど年齢や性別にあわせていくつかの競技を用意し参加チームを募る。そしてリーグ戦を行い優勝を争う。優勝チームにはトロフィーを授与し次の開催まで保管してもらう。継続して行うことが重要で各体育協会との連携は不可欠である。

(例) 加美リーグ ～ソフトボール競技～

	小野田	中新田	宮崎
小野田ファイターズ			
中新田タイガース			
宮崎ライオンズ			

農業を通じた交流

働く場所がない

提案

町で働ける場所が少ない

加美町で農業アルバイト

仙台、古川などの高校生、大学生を対象として、長期休暇期間に農家のアルバイトとして加美町で働く。無償ではなく給与を支払うことで、農業に真剣に取り組ませる。

- 都会の若者と、加美町の農家に農業を通じて接点ができる。
- 将来、就農したいと考えている若者に、農業を体験させる機会にもなる。

就農促進、支援団体の設立

加美町の農家全体で、若者の就農を支援する団体を設立する。インターネットを用いて全国の希望者を集める。全国の農学部、農業高校に宣伝を出す。

世代間交流

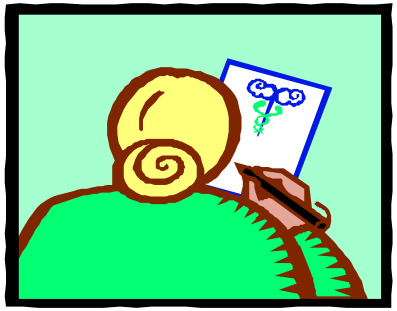
提　案

本音レターコンテスト

若い世代の人はお年寄りの世代への思いを手紙にし、お年寄りの世代は若い世代への思いを手紙にしてもらい手紙でコンテストを開催する。町の人から審査員を選定し、イベントとしてバッハホールなどで行う。応募された手紙は役場に展示する。賞を受けた手紙は町のキャッチコピーに採用し、役場のポスターにする。

文通によるホストファミリー

コンテストで手紙を書くことに興味を持った人のために、広報誌や町のホームページで他の町から文通相手を募り、役場で文通の仲介を行う。そして、文通で他の町の若者など普段なじみの無い人と交流することで町のお年寄りに活力を持ってもらう。文通する人同士に家族のような親しみをもってもらい、加美町が文通相手の第二の故郷として文通相手を招待するなど町のPRの一環とする。



学術機関との提携

町の将来を担うような人材を育成してほしい

提案

近くに大学のような総合学習機関があればいいのでは

宮城大学の教授・学生・サークルの派遣

興味や関心を抱いた学習内容を大学側に要請してもらい、大学側は適宜それに応じた教授、学生、学内の学生、サークルを派遣し教養を広げてもらうサポートをする。

例）・教授の講義を受ける場合には大学生と同様に、大学側は学業修了課程証明の単位代替として「名誉学士」などを与える。

↓

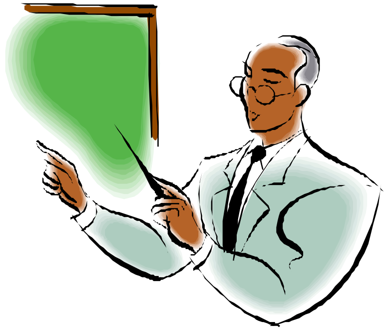
住民の方に受講しよかったものに関して独自の「名誉講師」などを教授、学生、サークルに与えてもらう。

学術機関へのフィールド提供

広く、大学等の研究機関にフィールドとして加美町を提供する。ともに発展する方向を探り、新たな角度から加美の価値を発見する。

例）・観光学科の研究対象

・宮城大学の新学部、食産業学部と連携して新たなビジネスを展開する。



観光を通じた交流

歴史・文化がある

提案

合併したばかりなので
交流がまだ足りない

加美町ツアー

●歩くツアー

希望者を募り加美町を歩くツアーをひらく。
参加者の交流を生み、新しい加美町の一面を発見する。

●馬車・牛車で回るツアー

加美町内を馬車や牛車で回ることで町のツアーに特色が生まれ、町のPRにつながる。

●クイズツアー

町の歴史・文化に関するクイズをしながら、町を回る。
町についてよく知るきっかけになる。

加美町歴史マップ

加美町の歴史マップを作り、そのマップに沿って歩くツアーを行う。今までよく知らなかったが、合併によって自分の町になった地域の歴史や文化に触れることで加美町に愛着をもってもらう。

歩道に加美ガイド

歩道に加美町の名所やその場所で起こった出来事を説明する文章をえがく。町の歴史やその場所に何があるか知ってもらう。そして、自分の町である加美町に親しみを持ってもらう。また観光客への目印にもなる。

松本家住宅）

特色のある農産システムを打ち出す

消費者が安心できるようにしてほしい

提案

産業を活性化してほしい

食品里親サービス

・町に来てくれた客に合鴨等のひよこのどれかを買ってもらう。

↓

・それらを町の畜産業者のグループがお客さんのかわりに安全な飼料で育てる。

↓

・食べられるようになったら、それまでの飼育代をもらい、加工して引き渡す。

↓

消費者は安全な食品を得ることができる。町にとっては内発型の産業育成につながる。安全な食の町としてのイメージができる。

加美ブランドを創る

無農薬を徹底して
欲しい

提　案

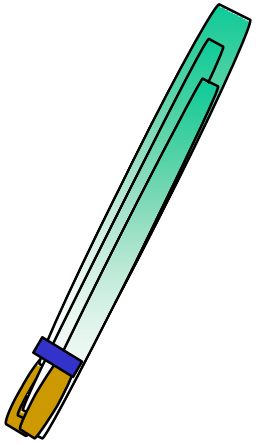
食べ物を作る町だから
農産物・自然が大事

クラシック育ちの農産物

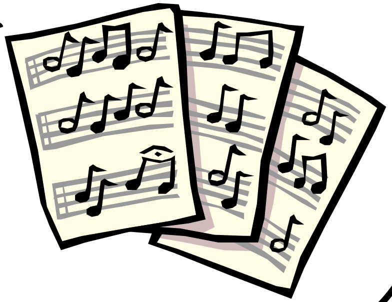
加美町にはエノキ、ネギ、小瀬菜、椎茸または地酒、アユ、イワナ、ヤマメ、合鴨肉など多くの特産物がある。

弦楽器の出す微妙な波動はα波に近く植物の成長を促すと言われている。そのためこれらの特産物を作る際、バッハを中心にクラシック音楽を聞かせる。

新ブランド「バッハ野菜」の発信



バッハなどクラシックを聞かせて育てた野菜として、ブランドイメージを加えて販売する。中新田のバッハホールのイメージとともに、消費者にバッハ野菜として、加美の農産物の宣伝をし定着を図る。



例）・バッハ野菜を土つきで販売し、安全性をアピールする。

・野菜を育てている風景や生産者の写真をラベルに貼り付ける。

加美ブランドの普及、定着

無農薬を徹底して欲しい

提　案

食べ物を作る町だから農産物・自然が大事

地元

各町の土産センターが経営の連携、協力をする

各町にある土産センターが連携し協力しあうことで、加美町の消費者が地元の農産物をより購入しやすい状況を創出する。

⇩

大型ショッピングセンターの便利さに負けない地元農産物の魅力を、スローをテーマに加美の消費者に訴える。

仙台・古川

出前
加美の味

●町財政で仙台のデパ地下のブースを確保する。

↓

・ブースで農家の生産者が直接、自分たちの作った野菜を販売し、特色、安全性をアピールする。BGMにバッハを流したりすることでことで、話題性を持たせる。
・地酒とカモを組み合わせて販売する。

●仙台、古川などに車による移動販売を行う。

↓

・住宅地や大型ショッピングセンターで加美町の特産品を販売する。
例）
特産品の鴨、ネギを使った串焼きを販売する
特産の野菜で作ったお漬物を販売する

バッハホールを生かし、バッハを町の名物としてPRする

文化的なことへの意識が高い

提案

バッハホールが町の自慢

バッハタウン構想

バッハホールは加美町のシンボルの一つである。このバッハホールを生かし「バッハタウン」として加美町をアピールしていく。

役場をバッハ一色に

・役場のBGMをバッハの楽曲にする。

・バッハの誕生日には町長、議員、職員がバッハなどバロック時代の音楽家の仮装をする。

（バッハ）

町をバッハ一色に

・通りの名前をバッハゆかりのものにする。
例）アイゼナッハ通り、カンタータ通り

・バッハの楽曲を聞かせた特産品を売り出す。
例）バッハの楽曲を聞かせて育てた合鴨をバッハ合鴨としてPR

・特産品にバッハにちなんだ名前をつける。
例）G線上のエノキ

バッハおじさんコンテスト

加美町を代表する名物キャラクター・人気者を“バッハおじさん”として選出する。選出は住民の投票で行われる。2年程度を任期とし、町の広報活動に協力してもらう。

バッハSALE

バッハが誕生した3月21日、バッハが亡くなった7月28日に町全体でセールを行う。

例）やくらいゴルフクラブの料金が半額になる

バッハホールを生かし、町民がイキイキできる町にする

文化的なことへの意識が高い

提案

バッハホールが町の自慢

バッハタウン構想

バッハホールは加美町のシンボルの一つであるため、バッハを生かし「バッハタウン」として加美町をアピールしていく。

音楽療法

お年寄りに対し、バッハの楽曲を利用した音楽療法を行う。

バッハが後世に遺した美しい楽曲を聞く、歌う、あるい演奏することで、心や体が癒され、また他の人と共に活動することで社会との関わりを持つことが出来る。

例）

バッハの楽曲をハンドベルで演奏する

バッハの楽曲を中心に合唱するお年寄りの合唱団を作る

病院のお昼時間にバッハの楽曲をBGMとして流す

音楽療法・・・音楽の力を利用して心や体を健康にすること。音楽を聴くだけではなく、歌を歌ったり楽器を演奏したりすることもこれに含まれる。

バッハの故郷との交流

バッハの故郷ドイツのアイゼナッハと交流をもつ。これによって町民がバッハへの理解をより深まると共に国際的な見識を養う。

例）

小中高生を対象としたアイゼンナッハ、加美の間での交換ホームステイ制度

アイゼンナッハの楽団をバッハホールに招待し、公演を行う

加美バッハオーケストラ

加美町の町民の有志からオーケストラを結成する。

週に一度バッハホールでの練習会を行い、町のイベントの際に公演を行う。

“加美”にちなんだ美しい町づくり

自然に触れたり、環境について学ぶ機会を充実してほしい

自然を壊さず大切にしてまちづくりを進めていってほしい

提案

1日1加美運動

文字通り“1日に1つ、まちに美しさを加えよう”というテーマの運動を住民に呼びかける。

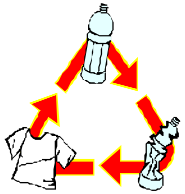
例）・1日に1つゴミを拾う
・自宅近くの公共物を清掃する
・普及活動一つとして散歩する人向けに特製ゴミ拾いキットを配り、ゴミ拾いを促進する

↓

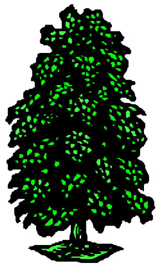
小さな事でも住民みんなが共通意識を持って継続してやることで美しいまちをつくる。。また、幼稚園や小学校などの幼少教育のなかにもこういった運動を取り入れる。そして、道路、景観にも力を入れる。

加美リサイクル工房

町内にリサイクル工房を造り、不要となった物を資源をとして再生したり、または修理をしたりして、ゴミを出さないようにする。また、リサイクル工房は子供たちにも開放して、再利用されるまでの過程を学んでもらう。



コミュニティツリー



町内の小さな地区ごとに苗木を植え、手入れの一切はその地区のコミュニティに委ねる。立て札などを立てればちょっとした名物景観にもなるし、コミュニティのつながりや緑化運動への意識向上も期待できる。

自然を守りたい

自然と一体となったまちづくりをしてほしい

提　案

自然の保護と自然に触れたり環境について学ぶ機会を充実させて欲しい

町の自然　探検ツアー

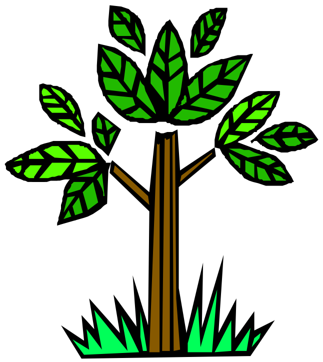
町の自然を町内の子供たちや新たに引っ越してきた人に知ってもらうために町の自然を探検するツアーを行う。案内役は古くから町に住んでおり、町のことを良く知っているお年寄りにお願いする。

お年寄りの知識・経験を生かす　＋　町の良さを再発見する

お年寄りの力を借りて、

町の財産を継承していこう！

加美レンジャー結成



自然の保護や伝承を長期的な視野で行うためにお年寄りと子供、その母親などで新たに加美レンジャーを組織し自然保護活動や観光客に対するやくらい山のガイド役など主体的にやっていく。その際に宮城大学のキャンパスレンジャーに運営方法や活動方法などについてレクチャーを受けるというのも効果的だと考えられる。

高齢者の力を活かす

お年寄りが生きがいをもてるように

提　案

子育てサポートがほしい

お年寄りの知恵・経験をまちづくりに活かすことでお年寄りに生きがいをもってもらい。

サービス工芸

お年寄りと子供などが一緒に公共物
（例：バス停のベンチ・学校の机、いす・座布団など）を作る。できたものには作成者の名前が記載される。公共物を作った人にとってはさらに町に親しみを持つことにつながる。

お年寄りによる子育てサポート

共働きの家庭では子育てのサポートが必要である。そこで、お年寄りによる子育てサポートを実施する。お年寄りの知恵や地域の伝統を次に世代に伝え、共働きの家庭では子育ての負担解消を目指す。

安心感 ·愛着の持てるまちづくり

住民のまちづくり
参加が足りない

提　案

安心して暮らせる
町にして欲しい

故人からの贈り物

日本全国で高齢化が進み、加美町でも今後更に高齢化が進むと考えられる。

お年寄りが亡くなった際、故人の遺族から公共物を寄付してもらう。

お年寄りが亡くなる前に遺言として寄付の予約をする。

●生前よく訪れていた場所や利用していたところに何か1つ寄付をしてもらう。寄付してもらったものには故人のネームプレートを付け、町に故人の足跡を残す。

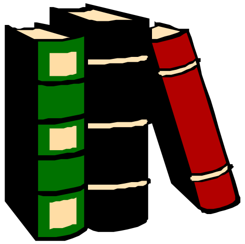
例

バス停のベンチを寄付してもらう

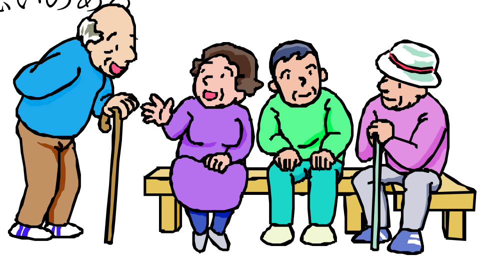
役場 ·学校の備品→椅子 ·机 ·老眼鏡

スポーツ用品

※上記以外にも役場の前の花壇、公園に木を植えるなど故人の思いのあるところに寄付をお願いする。



●図書館に故人が好きだった本を一冊寄付してもらう



住民の健康をサポートする

健康な暮らしを支援する
まちづくりをしてほしい

提　案

健康に暮らせる町で
あって欲しい

ヘルスケアセンタープラン

庁舎や公民館などの既存施設に一部ヘルスケアセンターとしての機能をもたせる。具体的には体組成計や血圧計などを設置し簡単なメディカルチェックや健康相談を行えるようにする。あわせて特定保健機能食品やサプリメント、健康器具を取り扱い、身近な生活習慣の改善、予防医学といった観点から住民の健康をサポートしていく。本庁の余剰職員を支所に割いたり、町内の栄養士免許をもつ主婦などがその担い手となる。

歩いて健康

希望する住民、主に高齢者に万歩計を貸し出しウォーキングを奨励する。100万歩を記録した人には『銅の万歩計』を、500万歩を記録した人には『銀の万歩計』を、さらに1000万歩を記録した人には『金の万歩計』をそれぞれ贈呈する。これにより積極的に町を歩く事や"歩け歩け"などのイベントへの参加を促し、健脚自慢の町を目指す。

生きる安心

福祉を向上させてほしい

提　案

お年寄りが安心して暮らせる
社会づくりをして欲しい

高齢化が進み、今後ますますお年寄りの孤独化が深刻となるだろう。
そこで住民の手で結成された組織によって、お年寄りをサポートする。

コミュニティビジネス

お年寄りへの家事サポート

お年寄りが家事をするときの手助けをする。全てを代行するのではなく、手助けをすることが望ましい。

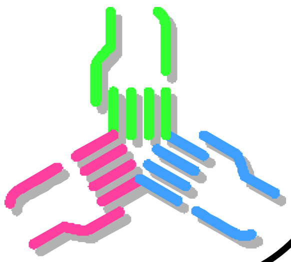
お年寄りへの給食サービス

お年寄りに給食のようなお弁当を配達するサービスを行う。

以上で挙げたようなコミュニティビジネスの担い手として、子どもが独立し比較的手の空いている主婦や元気のあるお年寄りなどが挙げられる。

※コミュニティビジネス…住民自らが自分たちの地域を元気にするために、あるいは地域の問題を解決するために
主体的に取り組んでいるような事業

コミュニティビジネスによって安心して暮らせる町を住民の手で作ろう



資料データ

アンケート概要

●目的

本提言書は平成15年度加美町において実施された「加美町住民満足度調査」の記述に従い集められた町民の意見、要望をもとに、定量分析手法※1、定性分析手法※2を用いながら、町民が満足あるいは不満と捉えていることは何か町民の求めがどのような傾向を持っているか、また提言として今後の合併のあり方の方向性を捉える目的で作成されている。

今回集まった町民の声は、必ずしも従来型の定量分析手法では捉えきれない多種多様なニーズに満ちている。このアンケート分析は、定量分析によって、住民満足という観点から見た合併の本質を明らかにし、定性分析によって個別の問題点か個別分野別の問題にまたがって存在する本質的な合併の問題点を導き出すことを目的としている。

●実施日時／場所

町の役場の方々にご協力を頂き、加美町の各地区で4日間に渡って行われた祭りの期間中、訪れる町民の方々にアンケートを実施した。回答総数281、有効回答数275である。今回加美町民以外の方の回答は無効とする。

なお祭りの概要は以下の通りである。

・旧小野田地区

日時：11月1日～2日　9：30～15：30

会場：小野田公民館、体育館など

・旧宮崎地区

日時：11月1日～2日　10：00～15：00

会場：スポーツ公園総合体育館ほか

・旧中新田地区

日時：11月7日～8日　9：30～16：00

会場：バッハホールなど

●調査方法

質問法※3による個別面接調査

2人1組で実施し、1人が質問項目の提示、説明を行い、1人がアンケート用紙に記入する（他記式）形式である。

●質問項目

質問項目は大きく分けて

Ⅰ　合併前の各町での暮らしの満足度

Ⅱ　合併後の町での暮らしの満足度

Ⅲ　合併後の町の将来への期待度

の 3つとする。

（※詳細な質問事項に関しては一を参照）

Ⅰ、Ⅱの項目に関して、まず満足度を5段階で評価する。その後評価をする際の判断理由を、こちらで提示した項目の中から2つまで選択した上で自由に意見を述べるという形を取っている。評価をする際の判断理由をこちらで提示した理由について、加美町は平成15年4月1日に合併した町であり、合併後間もない町であることが挙げられる。提示した項目が質問に回答する上での一助となることを期待したものである。なお判断理由は、満足度調査を行う前に実施したヒアリングや文献を参考にし、学生間で議論を重ねた上で作成した。その他という項目を設けることで、質問者側の意向が回答に反映されないよう留意している。

Ⅲの項目に関して、まず町が掲げる7つのまちづくりの方針を提示し、それについて質問Ⅰ、Ⅱと同様に期待度を5段階で評価する。その後町が掲げる7つの方針、またはそれ以外の事柄で特に力を入れて欲しい項目を1つ選択し自由記述とする。

●集計の手順

①回収票の最終点検と整理

回答の記入漏れの点検、文字や数字の点検を行う。選択可能な項目が 2つまでである質問に対し、2つ以上の項目が選択されいいる場合、町民の方の意見を重視するという観点から有効回答として処理している。

②データの入力

調査の際アンケート用紙に回答を記載した学生が改めてパソコンに回答を入力を担当し、誤字脱字がないか、また町民の方が下さった意見が正確に文章に表現されているか確認を行う。

③自由回答の分類

個別にデータを点検し、選択した項目と自由意見が合致しているかどうか確認を行う。選択した項目と自由意見の相違が見られる場合、自由意見を重視し、選択項目を自由意見に即した項目に修正する。

④集計

数値的なデータに関しては、それぞれの項目について個別に集計し、グラフを作成する。また関連があると思われる項目同士に関しては、クロス集計を実施し、同様にグラフ化している。

質問Ⅰ、Ⅱの自由回答について、カテゴリー化の手法として、回答を1つずつ個別に評価し、まとめる形式を採用する。今回の調査では回答内容を見て、ゼミ学生内でプラスの要素を含む意見、マイナスの要素を含む意見に分類している。なおプラス、マイナスの判断が困難な回答に関しては、満足度の5段階評価を参考にし、分類するものとする。

●分析手法

・定量分析

本提言書の元となった住民満足度調査の理解を深めるためにグラフなどで明示している。これにより、合併前後における住民の満足度の推移、また住民の期待度が顕在化し、住民の視点から見た合併の効果が明らかになる。また満足度調査の数量規模、旧町ごとの分布、また合併への関心の有無など、基礎的な事項を把握でき、より具体的に町民の意見を捉える一助となるはずである。

・定性分析

質問Ⅰ、Ⅱの自由回答について集計の段階でカテゴリー化したデータを元に、合併前、合併後の変化に着目した分析を行う。

分析の主な手順は以下の通りである。

① ⅰ)合併前の町に満足、または不満であった理由として選択された判断理由項目の順位付け

ⅱ)合併後の加美町に満足、不満である理由として選択された判断理由項目の順位付け

② ①の順位の変動によって導き出される加美町における合併の評価

③ 加美町の合併から考えられる合併の本質的な問題点、または今後のあり方

①～③の分析を行う際、各選択項目と各町ごとに住民の方々の自由回答をまとめた資料を参照する。満足、あるいは不満の理由となった具体的事例を把握し、分析に反映させている。なお比較的少数の意見であっても、その内容が本質的、かつ問題点を具体的に提示すると考えられるものに関しては取りあげている。

質問Ⅲの自由回答について、住民の方々が重視してほしい政策として挙げた項目を個別に確認した上で分類し、ニーズマップを作成している。なお頂いた要望は合併における提案の中に反映させている。

※1定量分析…与えられた物質の成分がどのような割合、または量で含まれているかを決定する化学分析

※2定性分析…与えられた物質がどのような種類の成分を含んでいるかを判定する化学分析。何が含まれているかを調べる場合と特定の物質が含まれているかどうかを調べる場合とがある

上記のように定量、定性分析は元々は化学分野の分析手法である。今回のようなある種のマーケティング調査に近い形式の調査では、母体となるデータ群中、特定の切り口で括られる構成要素が「どのくらい」あるのかを調べるものを「定量」、データ群の個別特性（どういった意見があるかなど）を抽出し、構成要素としたものを「定性」と位置付けている。

※3質問法…代表的調査法のひとつ。調査項目を質問書式に基づいて回答者に対して質問し、それを記録してデータを収集する方法。質問法の特徴は、質問紙を用いることで、調査対象者に与える情報を均一化でき、調査項目を具体的に質問できることである

加美町合併に伴う意識調査　アンケート用紙

【質問Ⅰ】加美町合併前の生活に関する質問

合併前に暮らしていたそれぞれの町にどれくらい満足していましたか？
当てはまるものを選んでください。

5. 満足　4. やや満足　3. どちらともいえない
2. やや不満　1. 不満

それはどのような理由からですか？
当てはまるものを2つまで選び、それについて具体的に述べてください。

1. 町での暮らしの便利さ（道路・交通・施設等）
2. 公的なサービスの充実度（医療・福祉・教育・役場の対応等）
3. 雇用に対する安心感
4. 町の自慢できるものの存在（産物・文化・歴史・自然等）
5. 町内外での交流（観光・まつり・イベント・集会等）
6. 町の運営に対する信頼感
7. 住民が町づくりに参加する体制（意見交換の場・情報公開等）
8. 合併前のまわりからの町のイメージ
9. その他

【質問Ⅱ】加美後の加美町での生活に関する質問

合併前に暮らしていた町と比較して合併後の加美町にどのくらい満足していますか？
当てはまるものを選んでください。

5. 満足　4. やや満足　3. どちらともいえない
2. やや不満　1. 不満

それはどのような理由からですか？
当てはまるものを2つまで選び、それについて具体的に述べてください。

1. 町での暮らしの便利さ（道路・交通・施設等）
2. 公的なサービスの充実度（医療・福祉・教育・役場の対応等）
3. 雇用に対する安心感
4. 町の自慢できるものの存在（産物・文化・歴史・自然等）
5. 町内外での交流（観光・まつり・イベント・集会等）
6. 町の運営に対する信頼感
7. 住民が町づくりに参加する体制（意見交換の場・情報公開等）
8. 加美町になってからのまわりからのイメージ
9. その他

加美町合併に伴う意識調査　アンケート用紙

町は合併後以下に挙げたような方針でまちづくりを行おうとしています。

1. 「職の安心・食の安全」
   産業の振興と地産地消も含めた安全な食物の生産
2. 「暮らしの安全」
   環境問題に積極的に取り組み加美町の豊かな自然を守る
3. 「学ぶ安心」
   加美町の子ども達の学習環境の整備と教育の向上を進める
4. 「生きる安心」
   健康な人も障害を持つ人も等しく生きがいのある毎日を送れるよう福祉の向上をめざす
5. 「心と体の安心」
   子どもからお年寄りまでの生涯学習を推進する
6. 「社会生活の安心」
   都市基盤の整備や情報通信網の整備により快適な加美町をめざす
7. 「未来への安心」
   行財政改革を推進する

【質問Ⅲ】町の将来に関する質問
以上の加美町の方針を見て、あなたは今後加美町がまちづくりを行う上でどのくらい期待が持てますか？
当てはまるものを選んでください。

5. 期待が持てる　4. やや期待が持てる　3. どちらともいえない
2. やや期待がもてない　1. 期待がもてない

上記の町の方針の中で特に力をいれて欲しいことは何ですか？
上記の方針1～7または8. その他から選び、選んだ事柄について自由に述べてください。

【あなたのことを教えてください】
①～⑥について当てはまるものを選び、⑦については
その年数を教えてください。

①性別　1. 男　2. 女

②年代　1. ～25歳　2. 26～40歳　3. 41～55歳
4. 56～70歳　5. 71歳～

③子育てはされていますか？
1. 子育て前　2. 子育て中　3. 子育て後

④合併前はどの地域にお住まいでしたか？
1. 旧小野田　2. 旧中新田　3. 旧宮崎　4. その他

⑤合併に関する関心はありましたか？
1. あった　2. ややあった　3. どちらともいえない　4. ない

⑥合併に関する情報は主に何で知りましたか？
3つまで選んでください。
1. 広報誌　2. 説明会　3. テレビ　4. 新聞　5. 雑誌
6. ラジオ　7. インターネット　8. クチコミ　9. 回覧板
10. その他

⑦加美町（旧小野田・旧中新田・旧宮崎）に住んでからの年数はどのくらいですか？

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

小野田地区 合併前意見

1. 町での暮らしの便利さ

プラス意見

- 施設が利用しやすかった（41～55歳／女性）
- 機能が一つの町にあった（56～70歳／女性）
- やくらい等の施設が充実している（56～70歳／男性）（56～70歳／女性）
- バスの停留所が多い（56～70歳／男性）
- 役場で何でもできた（56～70歳／男性）
- 除雪が良い（41～55歳／男性）

マイナス意見

- 施設、店が少なかった（～25歳／男性）（～25歳／女性）
- 除雪を一軒家のところまではしてくれない（41～55歳／男性）
- 公共交通機関が少ない（～25歳／女性）
- 中新田まで行かないと生活が不便（56～70歳／女性）
- 西地区から役場や中学校が遠い（41～55歳／女性）
- バスの回数が少ないので車がない人は大変（41～55歳／女性）

2. 公的なサービスの充実度

プラス意見

- 福祉が充実していた（41～55歳／男性）
- 医療サービスが充実していた（56～70歳／女性）
- 小さい子供に対して保育所がしっかりしていた（26～40歳／女性）
- 福祉・役場が良かった（41～55歳／女性）（56～70歳／女性）
- 施設が利用しやすかった（41～55歳／女性）
- 行政の窓口が身近だった（56～70歳／女性）（71歳～／女性）
- いろいろなサービスが全てできていた（41～55歳／女性）

マイナス意見

- サービス・役場の対応がいまいち（56～70歳／男性）
- 医療・病院が少ない（71歳～／男性）

3. 雇用に対する安心感

プラス意見

マイナス意見

- 町外でないと、なかなか職が見つからない（26～40歳／女性）
- 雇用がない（41～55歳／男性）
- 働き口がない（～25歳／女性）（41～55歳／男性）
- 子供の就職が不安（41～55歳／女性）

小野田地区　合併前意見

4. 町の自慢できるものの存在

プラス意見

- やくらい　やくしの湯（26～40歳／男性）（56～70歳／女性）
- やくらいの施設（41～55歳／男性）
- 自然の豊かさ（～25歳／女性）（56～70歳／男性）（71歳～／男性）
- 土産センター（41～55歳／女性）
- やくらい山（26～40歳／男性）（26～40歳／女性）（41～55歳／男性）（71歳～／男性）
- 空気がよい（71歳～／男性）
- 観光地として自慢できた（～25歳／女性）
- 農産物　自然など（41～55歳／女性）（56～70歳／女性）
- 伝統的な文化（雷鳴太鼓等）がある（26～40歳／女性）

マイナス意見

- 自慢できるものがないから街づくりができない（41～55歳／男性）

5. 町内外での交流

プラス意見

- やくらいを中核としたイベント町外からの観光客が多い（26～40歳／男性）
- イベントが多かった　やくらいリゾードで交流が行われていた（26～40歳／男性）
- 四季ごとのお祭りが良かった（41～55歳／男性）
- 夏祭りなどが良い（26～40歳／男性）
- グリーンツーリズムが活発（41～55歳／男性）
- 小さい町でのイベントのため住民がまとまっていた（41～55歳／男性）
- 行事が楽しみ（56～70歳／女性）

マイナス意見

6. 町の運営に対する信頼感

プラス意見

- 役場を信頼していた（～25歳／女性）
- 信頼感があった（56～70歳／男性）
- 交流人口60万人は役場のおかげ（41～55歳／男性）
- 町の運営を信頼できた（41～55歳／女性）

マイナス意見

- 不平等　公平じゃなかった（41～55歳／男性）
- 財政のやりくりがうまくいってなかったのでは？　責任感の欠如（26～40歳／女性）

小野田地区　合併前意見

7. 住民がまちづくりに参加する体制

プラス意見

- 行政が身近だった（41～55歳／女性）
- 実行委員会などで意見を言えすぐに反映してくれた（41～55歳／男性）
- いろんなサークル活動が活発に行われていた（41～55歳／男性）
- 町の一体感があった（41～55歳／女性）
- 意見交換の場があった（71歳～／男性）

マイナス意見

- 街づくりの具体案が表示されなかった（26～40歳／男性）

8. 合併前のまわりからの町のイメージ

プラス意見

- ほかの町よりも除雪が進んでいる（26～40歳／女性）
- 確立した町のイメージがあった（41～55歳／男性）

マイナス意見

- イメージがあまり良くなかった（41～55歳／男性）

9. その他

プラス意見

- 居心地が良い（56～70歳／女性）

マイナス意見

- 西地区と東地区ではお祭りや街づくりに対する温度差があり西地区はあまり積極的ではない（41～55歳／女性）

小野田地区　合併後意見

1､町での暮らしの便利さ

プラス意見

町が便利になった
（26～40歳／女性）

マイナス意見

中新田の役場に中心が移り
その結果商業の中心が中新田となる
2町にとってのメリットは少ない
（26～40歳／男性）

中新田に機能が
集約されてきている
（41～55歳／男性）

本庁の観光課まで行かないと
イベントの打ち合わせなどが
出来なくなった
（26～40歳／男性）

中新田は遠い
高齢者が容易に行ける
状況にはない
（41～55歳／女性）

町での暮らしが不安
中心部に町が取られるようで嫌
（26～40歳／女性）

施設が支所になり
主な機能が中新田へ
移ってしまった
（26～40歳／男性）

小さい子供の予防接種も
中新田に行かなければ
ならないので不便
（26～40歳／男性）

年寄りには不便になった
（26～40歳／男性）

公共的な施設が分散しており
公共的な催しが１ヶ所でできない
（26～40歳／男性）

施設･機能が一箇所に
集中していて不便だ
（26～40歳／女性）

まだ合併して半年
今後が不安
（26～40歳／男性）

除雪がどうなるか
（26～40歳／女性）

公共機関がバラバラ
町全体が寂しくなった
（26～40歳／男性）

みんな施設が散らばった
（26～40歳／女性）

道路がだめ
（56～70歳／男性）

合併しても同じく店が少ない
（～25歳／女性）

2. 公的なサービスの充実度

プラス意見

水道料金が
安くなった
（56～70歳／女性）

マイナス意見

役場が一体化し､末端まで
心配りが届いていない
バス･施設利用の手続きが
今までよりスムーズにできない
（26～40歳／男性）

役場の対応が悪い
公的な施設は近場にしてほしい
中新田は遠い
（41～55歳／女性）

支所があるが中新田に
行かないといけない時がある
商工会議所が中新田に移った
（56～70歳／女性）

医療･福祉関係のサービスが
中新田に集中した
（41～55歳／女性）

支所では対応できない
用事がある
（26～40歳／女性）

スタッフの関係で
きめ細かくやれなくなった
（41～55歳／女性）

役場の対応が
いまいち
職員が減った
（56～70歳／男性）

現在はまだ問題ないが
公的なサービスと町の運営
について不安がある
（41～55歳／女性）

役場の対応が
大雑把だと聞く
保育所の先生が今は良くない
（56～70歳／女性）

知っている人がいない
教えてくれない
（26～40歳／女性）

育児検診が中新田に
行かないとできない
（56～70歳／女性）

小野田での行政サービスが薄くなるのでは
（サービス対象者に差が出る）
合併によりそれぞれの町に競争意識がなくなった
（41～55歳／男性）

健康保険の書き換えを
忘れたりすると
中新田の本庁まで
行かなければならない
（56～70歳／女性）

福祉､サービスが低下
役場が不便
（41～55歳／男性）

中新田所の人に気軽に
相談することができない
（41～55歳／男性）

郡内での
大きな病院の管理は
税金の無駄遣いでは
（41～55歳／男性）

病院がない
予算がないから
（26～40歳／男性）

サービス料金が下がったが
いつ上がるかもしれなく不安
（41～55歳／男性）

あっちこっちに行かないといけない
（41～55歳／女性）

小野田地区 合併後意見

3. 雇用に対する安心感

プラス意見

- 新しい雇用ができたと思う（56～70歳／男性）

マイナス意見

- 雇用がない
  商店街工場がしまっている（56～70歳／男性）
- 雇用に対する不安がある（41～55歳／女性）（71歳～／男性）

4. 町の自慢できるものの存在

プラス意見

- やくらい山（26～40歳／男性）（41～55歳／男性）
- 自然がよい（56～70歳／男性）
- 自然がある（56～70歳／男性）

マイナス意見

- もう少し、人の集まるような文化的イベントが欲しい（71歳～／男性）

5. 町内外での交流

プラス意見

- 他の町との交流が増えた
  共有意識が強まった（～25歳／女性）（26～40歳／男性）
- 他の町民との一体感がある（71歳～／女性）
- イベントで一体化（26～40歳／男性）
- 3町の祭りが楽しめる（56～70歳／男性）

マイナス意見

- 今後も旧3町ずつのお祭りをやるのかはっきりしていない（56～70歳／男性）
- 中新田に中心地が移る
  地区ごとに催し物ができなくなる（26～40歳／男性）
- 町外との商売の取引がない（26～40歳／男性）
- 住民間、行政の繋がりが薄くなった
  中新田、宮崎の人が増えたので加美町全体としては声が届きにくくなった気がする（41～55歳／女性）

6. 町の運営に対する信頼感

プラス意見

マイナス意見

- 今までの町の運営の悪いところが合併により改善されていないのでは（26～40歳／女性）
- 子供たちの世代では信頼できるようになってほしい（26～40歳／男性）
- 小中学校の学区が混じる
  町界付近ではよその町の子が入ってくることに抵抗を感じる（～25歳／女性）
- 信頼がもてない（26～40歳／女性）（41～55歳／男性）
- 商工会が中新田にうっつた（26～40歳／女性）
- 町政が遠い
  身近でない（56～70歳／女性）
- 旧小野田がつまはじきにあった感じ（41～55歳／女性）

小野田地区 合併後意見

7. 住民がまちづくりに参加する体制

プラス意見

合併により子供たちに選択肢を多く広域的に与えられる（41～55歳／女性）

今までよりも意見を吸収できるようになった（56～70歳／男性）

マイナス意見

体制が整ってない（41～55歳／男性）（56～70歳／女性）

広域化して属性が弱まった感じがする（41～55歳／女性）

意見交換の場所がない（41～55歳／男性）

担当者が変わって今までの話が通じず話し合いなどでしっくりこない（41～55歳／男性）

合併して広くなって行政が遠くなった感じがする（41～55歳／女性）

少なくなった（71歳～／男性）

本部などが一つなので不便であり全体的に体制が整ってない（56～70歳／女性）

会合などをする場合集まる場所が遠いことが多い（56～70歳／女性）

小野田の意見が届きにくくなることに不安を感じる（56～70歳／男性）

合併により中新田中心になった宮崎小野田は支所である機能、祭りが中新田中心に（56～70歳／男性）

8. 加美町になってからのまわりからのイメージ

プラス意見

イメージ、注目度が上がった（41～55歳／女性）

東北で初めての合併という先駆け的イメージ（41～55歳／男性）

マイナス意見

市になれなかったことには不満を感じる「市」と「町」ではイメージや行政のサービスにひらきがあるように感じている（71歳～／男性）

加美市ではなく町になりイメージを損ねた（26～40歳／女性）

イメージは特に変わらない自分はまだ小野田気分（～25歳／男性）

町のイメージがぼけた（41～55歳／男性）

町のイメージが悪くなった（71歳～／男性）

9. その他

合併しても変わらない（26～40歳／男性）（41～55歳／男性）（56～70歳／男性）

合併で約束したことがぜんぜん見えてこない（41～55歳／男性）

3つの町がそれぞれよいと思っていることが合わさって良くなる点と悪くなる点がある（41～55歳／男性）

役場が旧中新田に教育委員会が旧宮崎に議会が旧小野田にと分散の仕方に不満を感じる（56～70歳／女性）

意思決定のライン、人の交流など中新田・宮崎の人間が入ってきてよその人と接することが増えたごちゃごちゃになった（71歳～／男性）

部落名がなくなって不便新しい名前にぴんとこない火事・タクシーを呼ぶ時等（56～70歳／女性）

小野田地区 将来への要望

1. 職の安心・食の安全

消費者に詳しい情報表示をして
消費者が安心できるようにしてほしい
（26～40歳／男性）

職業を増やして
活性化する必要がある
（41～55歳／女性）

職業を安定させてほしい
食べるためにはまず仕事
（56～70歳／男性）

町おこしが重要
（41～55歳／女性）

まずは『職の安心』
これが良くなれば、他の事も良くなる
（56～70歳／女性）

仕事が減ってきている
町全体の活性化を望む
小野田町内に職を増やしてほしい
（26～40歳／女性）

まずは産業の活性化
それが出来れば他の項目も達成できる
（41～55歳／女性）

『職の安心』が一番大事
働く場所を増やして
若者に希望を与えてほしい
（56～70歳／女性）

企業誘致により、
町内で働ける環境を整備して欲しい
（41～55歳／男性）

仕事がないと人が減っていくから
農業を守ってほしい
（26～40歳／女性）

子供達のため
後継者を育てるために
（41～55歳／女性）

大学などを出ても
地元に働く場所がない
（56～70歳／男性）

星町長の人柄はよい
小野田は会社が一つしかないので、働く場所を増やしてほしい
福祉も重視してほしい
（56～70歳／男性）

バッハホールでの成人式などには関心がある
除雪に関しては生活に合ったサービスをして欲しい
（41～55歳／男性）

2. 暮らしの安全

各地域のイベントの保存を！
（26～40歳／男性）

やくらい山を含めて、
自然を生かした施設があり、
そこにお客さんが来てくれるので
大切にしてほしい
（41～55歳／男性）

豊かな自然を残していきたいが
手入れをする人が
不足していくように思う
（56～70歳／男性）

生活するエリアが
暮らしの元になる
（41～55歳／男性）

自然を守ってほしい
（56～70歳／男性）

自然の町だから守ってほしい
（26～40歳／男性）

一番身近だから
（56～70歳／男性）

3. 学ぶ安心

教育の充実（育児資金や奨学金制度）
現在教育はあまり恵まれていない
（41～55歳／男性）

これからの未来は
子供たちが握っているから
（41～55歳／男性）

孫の将来が不安
（56～70歳／女性）

子供の教育が重要だから
（71歳～／男性）

子供の遊ぶ場所を確保
（41～55歳／女性）

一つの町として
学区のわだかまりが
なくなっていくといいと思う
（～25歳／女性）

町の将来を握るのは
子供たちなので、
子供の教育を重視してほしい
（41～55歳／男性）

子供から教育し、基盤を作る
人材教育
具体的な政策を知りたい
（41～55歳／男性）

子供たちが安心して勉強できないと
土地に定着しない
子供たちが伸びていかないと
町はだめになる
（41～55歳／男性）

小野田地区　将来への要望

4. 生きる安心

年金、医療費の負担などが重くならないこと
（26～40歳／男性）

高齢者や障害者への福祉を充実してほしい
（41～55歳／女性）

老人ホームに入れない人の対策
旧公民館などの施設の有効利用
（56～70歳／女性）

船形コロニー（障害者施設）の解体（地域に分散）を進める
（41～55歳／男性）

福祉が重要
（56～70歳／女性）

行政がすべきことである
ほかの項目より第一優先すべき
（26～40歳／男性）

高齢者に対する安心
（56～70歳／女性）

農家がきちんと生活できるようにしてほしい
（41～55歳／男性）

福祉の向上を目指してほしい
それが全部につながる
（41～55歳／女性）

安心して暮らせる町にしてほしい
（71歳～／男性）

雇用の問題を解決してほしい
（56～70歳／男性）

福祉関係に力を入れてほしい
（41～55歳／男性）

老後安心できる（健康・保健）ような町にしてほしい
（56～70歳／女性）

六十、七十代の死亡率が高い
（アルコールのため？）
（71歳～／男性）

健康に暮らせる町づくりをしてほしい
（71歳～／男性）

健康を維持できるようにしてほしい
（71歳～／男性）

お年寄りが安心して暮らせる社会づくりをしてほしい
（56～70歳／男性）

移動手段やバリアフリーなど
高齢者の割合の増加に対応して欲しい
（41～55歳／女性）

福祉を充実させてほしい
（41～55歳／男性）

5. 心と体の安心

物騒な世の中なので
子供のために教育環境の整備をすすめてほしい
（41～55歳／女性）

生きていく上で勉強が必要
心のゆとりを持つには余暇の過ごし方の学習が必要
（26～40歳／男性）

お年寄りを大切に
（56～70歳／女性）

高齢化社会なので
お年寄りのことを考えて
生涯学習を推進し
お年寄りに元気でいてもらいたい
（41～55歳／女性）

6. 社会生活の安心

加美町になり、情報交換を進めていく
家にいながら役場にアクセスできるようなシステムがほしい
（～25歳／女性）

道路を広くしてほしい
（～25歳／男性）

交通・道路の整備
道路を広くしてほしい
（26～40歳／男性）

加美町の利点（地価、人件費の安さ）を利用し、雇用を増やす
（26～40歳／女性）

交通機関が少ないから年寄りには大変
（～25歳／女性）

国道以外の道路整備
砂利道・狭道の整備を
昔はしてくれたが、加美になってから
お願いしているがまだやってくれない
（56～70歳／女性）

7. 未来への安心

財政の見直し
（26～40歳／女性）

町民の税金で
どのようなことをやるのか
（41～55歳／女性）

議員が多い
経費削減してほしい
（56～70歳／男性）

65歳を過ぎたので
安心して過ごせるようにしてほしい
（56～70歳／男性）

行政サービスが
住民に身近であると
実感できるか分からない
（71歳～／女性）

8. その他

お店とかを増やしてほしい
遠くまで行かないと買い物できない
（～25歳／女性）

色麻も含めて
人口3万人を超えて市になるべき
（71歳～／男性）

1. 町での暮らしの便利さ

プラス意見

住み慣れていて、
住み心地が良い
(56歳～70歳／男性)他 2人

中新田は農村というよりやや都会
(56歳～70歳／女性)

利便性が高い
(71歳～／女性)

静かな町で暮らしやすかった
(56歳～70歳／男性)他 2人

生まれた町だから
比べたことがない
(～25歳／女性)他2人

町としてまとまっており
便利だった
(56歳～70歳／男性)

生活に支障がなかった
(41～55歳／男性)

ずっと暮らしているので満足
(71歳～／男性)他 2人

暮らしが便利だった
4号に近い
(56歳～70歳／男性)

新幹線、JRから近い
図書館もある
(41～55歳／男性)
(26～40歳／男性

道路の整備がされており、
交通が便利だった
(56歳～70歳／女性)

バスの運転手さんが優しい
(～25歳／女性)

催しがあるとマイクロバスでの送迎がある
(56歳～70歳／女性)

交通が便利だった
(41～55歳／女性)

車が少なく、安全
(～25歳／女性)

施設(バッハホール、
老人ホーム)があり、便利
(56歳～70歳／女性)

公立の施設が充実していた
(26～40歳／女性)

見学できる施設がある
(～25歳／男性)

いろいろな施設があり、よかった
(56歳～70歳／女性)

お店の施設が充実
している
(56歳～70歳／女性)

スーパーがあり消費者
として生活しやすい
施設もある
(56歳～70歳／男性)

病院はあった
(41～55歳／女性)

アップルファーム(りんご狩りの 施設)がある
(～25歳／女性)

マイナス意見

車が通っても危なくない
歩道にしてほしい
(56歳～70歳／女性)

道路が悪い(歩道が狭い)
(71歳～／男性)

電車がなく、高速から遠い
(41～55歳／女性)

交通が悪い。バスがないので
自転車で移動しなくてはならない
(71歳～／女性)

バスの数が少ない
(～25歳／女性)

主な交通手段がバスのみで、
車がないと、交通が不便
(～25歳／男性)

町内でのバスはあり、
不便していない
しかし町外(仙台)にでる
ときはバスがなく不便
(56歳～70歳／女性)

中新田地区 合併前意見

2. 公的なサービスの充実度

プラス意見

役場の対応、教育、福祉が良かった
（56歳～70歳／女性）

役場が小規模で良かった
（26～40歳／女性）

役場・農協が身近な存在だった
（56歳～70歳／女性）
（71歳～／男性）

役場の対応が良かった
（56歳～70歳／女性）
（71歳～／女性）

育児手当があった
（26～40歳／女性）

行政関係が便利だった
（今は施設が細分化した
教育関係→宮崎、議会→小野田）
（56歳～70歳／男性）

福祉が良かった
新しい建物を建設している
（26～40歳／男性）
（56歳～70歳／女性）

まあまあサービスが良かった
（41～55歳／女性）

地元の医者が開業医として里帰りしてくれる
（56歳～70歳／女性）

公民館を中心とした生涯学習講座が充実。旧中新田町民も熱心
（41～55歳／女性）

教育が充実していた
（71歳～／女性）

マイナス意見

便利ではなかった
役場の対応もあまり良くなかった
（56歳～70歳／女性）

役場の施設が不足に感じる
（41～55歳／女性）

鮭、鮎を釣る際に持ち帰る許可を出して欲しい
（56歳～70歳／男性）

以前の町（旧中新田）は良かった
（56歳～70歳／男性）

福祉を充実させて欲しい
介護してみて施設が少ない
（56歳～70歳／女性）

医療関係、小児科や夜間医療が不十分
（26～40歳／女性）
（26～40歳／男性）

3. 雇用に対する安心感

プラス意見

マイナス意見

4. 町の自慢できるものの存在

プラス意見

文化が良い　自然環境が良い
(71歳～／男性)

自然の豊かさ
(71歳～／女性)

商工会のイベントが
充実している
(26～40歳／女性)

伝統的なお祭りを中心に
一体感が持てる町だった
(71歳～／女性)

歴史は自慢できる
(56歳～70歳／女性)
(56歳～70歳／男性)

文化的なことへの関心が高い
(71歳～／女性)
(41～55歳／男性)

文化施設や農産物
(56歳～70歳／男性)
(41～55歳／男性)

4月29日に行われる虎舞、また野菜が自慢
(56歳～70歳／女性)

歴史、文化がある
(56歳～70歳／女性)
(41～55歳／男性)

火ぶせの虎舞のお祭りが自慢
(26～40歳／女性)
(～25歳／女性)

バッハホール、鮎の里
(～25歳／男性)

やくらい山や
温泉が良い
(～25歳／女性)

バッハホールが自慢できる
(56歳～70歳／女性)

マイナス意見

5. 町内外での交流

プラス意見

昔ながらの町の雰囲気が残っていて、
近所との付き合いがまだ強く感じる
(56歳～70歳／女性)

幼稚園児童の描いた絵があるなど、旧中新田のお祭りは
地域密着型で良かった
(～25歳／女性)

町で行われるスポーツ大会には
子供からお年寄りまでが参加する
などの交流がある
(～25歳／男性)
(26～40歳／女性)

全国的なイベントがある
バッハホール、縄文館
(56歳～70歳／女性)

お祭り、交流があった
(71歳～／男性)

イベントがしやすく、コンサートが良い
(56歳～70歳／女性)

町内での交流が良かった(集会等)
(56歳～70歳／女性)
(56歳～70歳／男性)

お祭り、イベントに以前は
予算をかけていた
(26～40歳／男性)

お祭りが充実したから
(56歳～70歳／女性)
(71歳～／女性)

鳴瀬で交流する場所があった
(41～55歳／男性)

地域の交流　外の人とも交流できた
(71歳～／男性)

マイナス意見

中新田での祭りは
盛り上がらなかった
さらに、加美の中で
通過点に過ぎず、
客が滞留しない
(56歳～70歳／男性)

中新田地区　合併前意見

6. 町の運営に対する信頼感

プラス意見

- 町役場が信頼できた（71歳～ ／ 男性）
- 町が小さいので、サービスが行き届いていた（71歳～ ／ 男性）

マイナス意見

- 官尊民卑の風土がある（56歳～70歳／ 男性）

7. 住民がまちづくりに参加する体制

プラス意見

- 町の人たちが協力して消防等をやっていた（56歳～70歳／ 女性）
- 意見交換する場所があった（71歳～ ／ 女性）（56歳～70歳／性）
- お祭り、運動会があり町全体が交流しており、若い人も参加していた（26～40歳／女性）
- 人の話を聞くことが出来た（56歳～70歳／ 男性）
- 住民の声が出しやすい（56歳～70歳／ 男性）

マイナス意見

- 住民がまちづくりに参加する体制が不十分（～25歳／男性）

8. 合併前のまわりからの町のイメージ

プラス意見

- 加美郡の中で中新田は中心というイメージがあった
- のどかなイメージがあった（～25歳／女性）
- イメージが良かった（～25歳／男性）

マイナス意見

- イメージが悪かった（～25歳／男性）

9.その他

プラス意見

- 特に不満がなかった（26～40歳／男性）

マイナス意見

- 若い人向けのお店が少ない（～25歳／女性）
- 人が出てこない（56歳～70歳／ 女性）

中新田地区 合併後意見

1.町での暮らしの便利さ

プラス意見

利便性が高い
（71歳～/女性）

合併して道路が良くなった
（56歳～70歳/女性）

合併前と変わらずに良い。
（～25歳/男性）

店が多くなった
（56歳～70歳/男性）

合併前は宮崎町の施設を使うのに有料だったが合併後無料になった
宮崎町の立派な施設が自慢
（56歳～70歳/女性）

合併の前後で変化はない
（56歳～70歳/男性）

他の町の施設が使いやすくなった
（26～40歳/女性）

マイナス意見

道路が悪い
歩道が狭い
（71歳～/男性）

交通の手段が少ない
100円バスなどが必要ではないか
（56歳～70歳/女性）

合併によって向上、充実すると思って期待していたが、思ったほど合併によって生じる良いところを実感できていない
（26～40歳/女性）

交通手段が不便
（56歳～70歳/女性）
（～25歳/女性他1名）

合併しても交通の便が悪い
変化はない
（71歳～/女性）

市になれなかったので、満足度が下がった
（26～40歳/女性）

合併によって郵便局の支局名が変わるなど不便になった
（～25歳/女性）

便利ではなかった
役場の対応もあまり良くなかった
（56歳～70歳/女性）

2. 公的なサービスの充実度

プラス意見

役場の対応が良い
（71歳～/女性）

サービスは充実している。小野田、宮崎の人が同じようなサービスを受けられるかが気がかり
（41～55歳/男性）

マイナス意見

役場の対応は不透明
（26～40歳/男性）

役場・農協の付き合いやサービスが悪くなった
（71歳～/男性）

職員の対応に問題あり。顔見知りの職員が減り、知らない職員が増えた
市になってほしかった
（56歳～70歳/男性）

サービスはよくならない
（71歳～/女性）

今までよりも規模が大きくなったため役場の職員が仕事になれていないと感じる
（71歳～/女性）

宮崎・小野田ではサービスが低下
わざわざ中新田まで行かなくてはならない
（26～40歳/女性）

農協の統廃合により対応する窓口の存在が遠くなった
役場でも本庁じゃないとやってもらえない事がある
（56歳～70歳/女性）

合併しても何も変わらない
実感がない
（26～40歳/女性）
（71歳～/女性）

子供の健康診断で遠い場所を指定されると不便
（26～40歳/男性）

合併により範囲が広がり行政サービスの質が落ちた
（71歳～/男性）
（56歳～70歳/女性）

老人ばかり増えたように感じている
保険料が上がるかもしれないことに不安を感じる
（56歳～70歳/女性）

医療に関してはまだまだ足りない
（56歳～70歳/女性）

色麻町では12歳まで医療費が無料だった。
加美はそうではない。合併によってサービスが低下した
（26～40歳/女性）

中新田地区　合併後意見

3. 雇用に対する安心感

プラス意見

マイナス意見

- 働く場所が少ないし リストラの不安もある（56歳～70歳/女性）

4. 町の自慢できるものの存在

プラス意見

- 自慢できるものが増えた（56歳～70歳/男性）（～25歳/女性） 他2名
- 他の町の自然が自分の町のものになった（56歳～70歳/女性）
- やぐらいの湯が自分たちの町のものになった（56歳～70歳/男性）
- 文化や自然環境が良い（71歳～/男性）
- 文化的なことへの意識が高い（71歳～/女性）
- 虎舞など伝統的な行事が加美町のものになった（～25歳/女性）
- 他の町の文化は豊かであるから（71歳～/女性）
- 文化的な町である（56歳～70歳/女性）
- 中新田の自慢できるものが他の町のものにもなった（～25歳/女性）
- 農産物の豊かさ（56歳～70歳/女性）
- バッハホールが自慢（41～55歳/男性）
- 公共の物に力を入れている（41～55歳/男性）

マイナス意見

- 文化特色が薄れた 商店街の方は悪くなったと言っている（41～55歳/男性）
- 小野田は手打ちそば、宮崎は切り込み焼きの体験というように各地域を代表とする文化があったが加美町としてそれらを一本化するのか交流が生まれるのかは分からない（41～55歳/女性）
- 中新田という名前が忘れられてしまいそう（～25歳/女性）
- 何も変わらない。市になれなかったのは残念（26～40歳/男性）

中新田地区 合併後意見

5. 町内外での交流

プラス意見

お祭りなど交流がある
（71歳～/男性）
（41～55歳/男性）

イベントが広がった
商工会の会合など人との交流がある
（56歳～70歳/男性）

3町の一体感ができ、交流が増えた
（26～40歳/男性）
（56歳～70歳/女性） 他2名

イベントが多い
（56歳～70歳/女性）

イベントがよい
（41～55歳/女性）

他町民に対して親近感が生まれ
心の交流が生まれた
（56歳～70歳/女性）

今年の夏祭りの花火が
例年よりも多かった
（～25歳/男性）

加美町内の色々なお祭り
に行くようになった
（41～55歳/男性）

鳴瀬の交流センターで
交流があった
（41～55歳/男性）

小野田、宮崎の充実した自然
宮崎のスポーツ施設が自分たちの町のものになった
（41～55歳/女性）

マイナス意見

合併したばかりなので、
各町とのコミュニケーションが
まだまだ薄く感じる
（41～55歳/女性）

合併によっての交流はない
（56歳～70歳/女性）

広報誌などの情報が加美町に
なり密度が薄くなった
（56歳～70歳/女性）

連帯感が薄い
地域性が薄れた
（56歳～70歳/男性）

婦人会（お母さんの会）としては今までと変わりないが
宮崎、小野田の住民とは交流がなく一体感がなく違和感をまだ感じる
（56歳～70歳/女性）

町が広がり、イベントが分散し日程調整が困難
（56歳～70歳/女性）

どの地区もあまり好きではなかった
（～25歳/女性）

行政等それぞれの
セクト主義がまだ残っている
（56歳～70歳/男性）

6. 町の運営に対する信頼感

プラス意見

仕事をしっかりやっている
と感じる
（26～40歳/女性）

信頼している
（71歳～/男性）

町の範囲が広がり、広報などで多くの
情報を得ることができるようになった
（56歳～70歳/女性）

マイナス意見

信頼感はない
（～25歳/女性）

合併したばかりなので、信頼はまだ持っていない
（56歳～70歳/女性）
（26～40歳/女性）

役場が遠い存在になった
（56歳～70歳/男性）

行政が行き届かない
行政が非協力的
（56歳～70歳/女性）

支所が使いにくい
医療福祉の水準が低下するのではないか
中新田は中新田の良さを持ってほしい
（56歳～70歳/女性）

町の規模が大きくなり
行政が住民一人一人の
面倒をみきれない
（71歳～/女性）
（71歳～/男性）

中新田地区　合併後意見

7. 住民がまちづくりに参加する体制

プラス意見

- 情報公開は充実している（71歳～/女性）

マイナス意見

- 組織が大きくなると声を出しづらくなる（26～40歳/女性）
- 住民が動かず、関心がない（56歳～70歳/男性）
- 住民のまちづくり参加が足りない（71歳～/男性）
- 交流が進んでいない。合併意識も薄い（56歳～70歳/男性）
- 合併してから特に良くなったという感じがしない（56歳～70歳/女性）
- 今後も住民の意見が町政にどう反映されるのか不安（71歳～/男性）

8. 合併前のまわりからの町のイメージ

プラス意見

- 知名度はあがった（56歳～70歳/男性）（41～55歳/女性）
- 花火大会が行われてイメージが良くなった（～25歳/女性）
- 町のイメージは良くなった（41～55歳/女性）
- 他の地域との交流が良くなった（41～55歳/男性）

マイナス意見

- "町"だとイメージが変わったように思えない（～25歳/男性）
- 色麻が入って市になれたら良かった"市"のイメージが欲しかった（～25歳/男性）
- 中新田がなくなってしまった（41～55歳/男性）
- 大きくなり他人事のように感じる加美町といっても場所がわからない（56歳～70歳/女性）
- イメージが悪いデパートなどがあると良い（～25歳/女性）
- 周りから見たら、スッキリとした合併ではなかったと思う（26～40歳/男性）
- まだイメージは変わらない合併による変化はない（56歳～70歳/男性）（56歳～70歳/女性）
- 4町になれなかったことは残念に思う（56歳～70歳/女性）

中新田地区 合併後意見

9.その他

プラス意見

広報の範囲が広がり宮崎・小野田の情報も得ることができるようになった（56歳～70歳/女性）

変化なし（56歳～70歳/女性）（56歳～70歳/男性） 他2名

合併しても変わらず居心地はよい（71歳～/男性）

自然，施設等色々なものを統合できて良い印象をもっている町の可能性が上がった（41～55歳/女性）

生まれ育った町だから町に満足している（71歳～/女性）

宮崎の温泉の割引対象になり利用しやすくなった（56～70歳/女性）

中新田という町名のほうがよかった。加美郡加美町だとまだピンとこない（～25歳/女性）

マイナス意見

あまり変わっていないので中新田だけで良かった（～25歳/女性）

実感がまだない。宮崎と小野田と一緒になったというがまだピンとこない（～25歳/女性）

町が大きくなりすぎた（56歳～70歳/女性）

広報誌の情報量が3町分になり分かりにくくなった（71歳～/女性）

合併は一体何のためにしたのかが分からない住所と役所が変更しただけである住民には変化がない（56歳～70歳/男性）

合併しても変化の実感はない色麻離脱は残念、市になりたかった色麻に不満がある（56歳～70歳/男性～25歳/男性）

町は市になれなかったことは残念に思う（56歳～70歳/女性）（56歳～70歳/男性） 他1名

議員の特例法はよくない（56歳～70歳/男性）

住所を旧町名で書いてしまう加美郡加美町というのはくどい(71歳～/女性)

宮崎・小野田から中新田へと地域によっては過疎化が進んでいる（71歳～/男性）

合併してから町に変な人が流れてくる（26～40歳/男性）

中新田地区 将来への要望

1. 職の安心・食の安全

職場を確保して欲しい
（～25歳/男性）

職場が少ない
（41～55歳/男性）

安全な職場、安全な食を
求めている
（26～40歳/男性）

無農薬を徹底してほしい
（56歳～70歳/男性）

農産の町である
（41～55歳/男性）

賃金が安い
古川に行かないと仕事が見つからない
（～25歳/女性）

仕事を安定させて欲しい
（41～55歳/女性）

特に農業に関して食の安心を求めている
（56歳～70歳/女性）

農薬をあまり使わない食べ物を
出すようにしているが手間やお金がかかる
行政には理解と支援を求めたい
（56歳～70歳/女性）

商売出来るものは商売にしていくような
徹底する町を目指して欲しい
（26～40歳/男性）

働く場所を増やしてほしい
（56歳～70歳/男性）
（56歳～70歳/女性）

商店や大企業が倒産し
失職者が増えている
（41～55歳/女性）

町を発展させて欲しい
雇用も重要
（～25歳/男性）

企業の誘致をしてほしい
（56歳～70歳/女性）
（41～55歳/男性）

若い人が定着するには雇用が必要。40代～60代の
世代でそういった環境作りを
（41～55歳/女性）

食が大事
農業を振興させてほしい
（56歳～70歳/男性）

「職の安心」のため
産業の振興に取り組んでほしい
（56歳～70歳/女性）

2. 暮らしの安全

自然の保護
自然に触れたり、環境について
学ぶ機会を充実させて欲しい
（～25歳/女性）

子育てをしながら働いているので
サポートしてくれるような
サービスを増やして欲しい
（26～40歳/女性）

自然を増やして欲しい
（～25歳/女性）

安全だったら良い
（～25歳/女性）

星町長の人柄がよい
（56歳～70歳/男性）

自然を守って、安全な暮らしが
できるような町にしてほしい
（71歳～/女性）

交通量が多いのに、道路が狭い
これからは道路を広くしてほしい
（71歳～/女性）

不況・景気対策
（56歳～70歳/女性）

安心して暮らせるようにして欲しい
（41～55歳/女性）

町を一体化、活性化して欲しい
今年は不況だから来年は状況が良くなるように
（56歳～70歳/女性）

新しい道路を作られても
ダムも返事待ちで中途半端である
（26～40歳/男性）

中新田地区　将来への要望

3. 学ぶ安心

乳幼児の頃から学習できるようなところが欲しい
（～25歳/女性）

スポーツ施設を充実して欲しい
冬でも泳げるプールが欲しい
（26～40歳/男性）

子供が遊べる施設がほしい
（56歳～70歳/女性）

根本的な教育は重要だと思う
（56歳～70歳/男性）

学ぶ環境を整えて欲しい
（26～40歳/男性）

教育、行事を盛んにして欲しい
（41～55歳/女性）

学校間の生徒数のバランスが悪い
（56歳～70歳/男性）

加美郡には高校が二つあるが
近くに大学のような総合学習機関が欲しい
（41～55歳/男性）

基本的な学習施設の整備を望む
（56歳～70歳/女性）

4. 生きる安心

健康に暮らせる町であって欲しい
（～25歳/男性）
（～25歳/女性）

イキイキと安心して生活できるように
（56歳～70歳/女性）

未来のために、安心して
生きられるような町にしてほしい
（56歳～70歳/女性）
（56歳～70歳/女性）

福祉を向上させてほしい
介護施設を増やすなど老人になってからの不安を減らしてほしい
（56歳～70歳/女性）

将来の自分の福祉について不安がある
（56歳～70歳/女性）

医療の充実をはかって欲しい
（26～40歳/女性）
（56歳～70歳/男性）

もし自分が障害者や高齢者になったときに安心して暮らせる町にして欲しい
（～25歳/女性）

福祉の向上と様々な面での行政の協力を望む
（71歳～/男性）
（～25歳/女性）

星町長は信頼できる
福祉に力を入れてほしい
（56歳～70歳/女性）

福祉の向上、健常者との垣根をなくす
（56歳～70歳/女性）
（～25歳/女性）

加美町の医療センターを充実してほしい
56歳～70歳/男性

お年寄りを大切にして欲しい
（71歳～/女性）

要介護者を抱えている
福祉サービスを充実させてほしい
（71歳～/女性）

介護雇用事業所定を受けており関心がある
老後の生活を考えていくことが大切
（56歳～70歳/男性）

年をとっても安心して暮らせるよう
年金、保健、介護サービスが安心して受け取れるようにしてほしい
（71歳～/男性）

子供のためにもかかりつけの病院が近くに欲しい
（26～40歳/女性）

歩道が狭くお年寄りには危険なため
道路の整備など高齢者が安心して暮らせる町にして欲しい
（26～40歳/女性）

町の人口が増えない。大きくなったといっても具体的な計画を公表してほしい
（56歳～70歳/男性）

中新田地区　将来への要望

5. 心と体の安心

生涯学習を推進して欲しい
（～25歳/女性）

教育の整備
皆が幸福になって欲しい
（26～40歳/女性）

子供が安心して暮らせるような
町づくりをして欲しい
（41～55歳/女性）

今までは旧町単位で生涯学習講座が開かれ
募集もそれぞれの町民に限定されていたが
来年度からはそういった制約がなくなるので
各地域の伝統工芸や文化がどんどん広まり
継承されると良い
（41～55歳/女性）

これからの次世代である
子供たちの教育が重要
（71歳～/男性）

お年寄りが寝たきりになったときなど協力をして欲しい
地域ごとの助け合いのシステムを作って欲しい
（56歳～70歳/女性）

バスの増便など便利になって欲しい
車がないと不便
（56歳～70歳/女性）

3町一体となった
生涯学習
の場がほしい
（71歳～/男性）

福祉だけにとらわれるのではなく“ゆりかごから墓場まで”安心できる町にして欲しい
縦割りのシステムではダメ
（26～40歳/男性）

少子化と高齢化の問題に関しての対策
（56歳～70歳/女性）

6. 社会生活の安心

道路や街頭の整備をして欲しい
（～25歳/男性）

バスを増やしてほしい
（71歳～/女性）

道路の整備に力をいれて欲しい。本間さんのときは整備されていた
（71歳～/男性）

中新田地区 将来への要望

7. 未来への安心

目標としていることを実際に
やっていない。形として出して欲しい
（～25歳/女性）

行政改革は必要だと思う
（41～55歳/男性）

子供からお年寄りまで安心して
暮らせる町を作って欲しい
（41～55歳/女性）

他のことをするにしても
行財政がベースとなる
組織がよくなれば、他の部分も
良くなるのではないか
（26～40歳/女性）

結局は特例を生かしての合併である。議員数を減らさない
とこれから2年間無駄に金を使うことになる
（56歳～70歳/男性）

将来のことをしっかりやってほしい
（71歳～/男性）

8. その他

公約やあくまで選挙のためのもの
期待しても意味がない
3町がともに活動する場を作るべき
（56歳～70歳/男性）

他の地域の人と打ち解けたい
（56歳～70歳/女性）

少子化なので、子供たちが結婚
できる環境を作ってほしい
（56歳～70歳/女性）

わからない
（71歳～/男性）

宮崎地区　合併前意見

1. 町での暮らしの便利さ

プラス意見

すぐ近くが役場だった
役場に銀行が入っていた
（56～70歳／女性）

町の中で用事が済ませられた
（56～70歳／男性）

農協関係の用事が済ませやすかった
（71歳～／男性）

役場関係の用事が
スムーズに済ませられた
（56～70歳／女性）

すべて満足
交通の便（バス）が多くある
（71歳～／女性）

施設が完備されていた
（56～70歳／男性）

不便はしていない
（26～40歳／男性）

最近は施設が充実してきた
（41～55歳／男性）

役場が近くて便利だった
（56～70歳／女性）
（56～70歳／女性）

買い物は不便だが住む場所としては
満足していた
（26～40歳／女性）

田舎なので町の奥(県境側)
での生活がわかりにくい
自分は生活が中新田よりだった
（26～40歳／男性）

マイナス意見

宮崎では買い物・病院ともに不便
仙台に行かなくては生活できない
（41～55歳／女性）

道路の道幅が狭く不便だった
（26～40歳／男性）

道路や交通が不便
（41～55歳／男性）
（56～70歳／女性）

交通機関がない
（～25歳／男性）

道路が悪い
（56～70歳／女性）

交通・通信システムが不便
（～25歳／男性）

2. 公的なサービスの充実度

プラス意見

役場職員は顔見知りでいろいろと良くしてくれた
サービスは充実していた
（26～40歳／男性）

未就学の子どもたちへの対応が良かった
幼稚園があった
（41～55歳／女性）

役場は何でも親切に教えてくれた
（56～70歳／女性）

少子化傾向にあるが教育の密度が高かった
（56～70歳／女性）

40代以上対象のアンケート調査などで医療が充実
（41～55歳／女性）

規模は小さいが充実していた
（26～40歳／男性）

サービス施設は充実していた
（41～55歳／女性）

福祉センターや役場の対応が良かった
（56～70歳／女性）

母子家庭・老人など弱者にやさしい
（56～70歳／女性）

役場が知っている人ばかりで良かった
（～25歳／男性）

サービスは充実していた
町が狭ければ狭いほど充実するのではないか
（41～55歳／女性）

体育館の予約が取れやすい
運動場などが便利
（26～40歳／男性）

福祉が充実していた
（56～70歳／女性）

役場の対応が良かった
（41～55歳／女性）

全てにおいて良い
（56～70歳／女性）

マイナス意見

医療において
大きい病院がない
（41～55歳／女性）

医療が遠かった
（～25歳／男性）

医療が悪い
福祉はまあまあ
（71歳～／男性）

宮崎地区　合併前意見

3. 雇用に対する安心感

プラス意見

マイナス意見

雇用が足りなかった
（41～55歳／女性）

勤め先が町外でないとなかなか見つからない
（41～55歳／男性）

雇用がない
（71歳～／女性）

4. 町の自慢できるもの

プラス意見

切り込み焼きやナイトバザール
（～25歳／女性）
（～25歳／女性）

自然が豊か
（56～70歳／男性）
（26～40歳／男性）

自然や陶芸といった文化
（～25歳／女性）

立派なスポーツ施設がある
山があり資源がある
（71歳～／女性）

食べ物がおいしい
自然が豊かで空気がよい
（71歳～／女性）

自然や資源が豊富
（71歳～／女性）

自然が一番。野菜がおいしい
（56～70歳／女性）

特産物を生かして産業としていた
（56～70歳／男性）

陶芸の里
（41～55歳／男性）

農産物や文化は自慢できる
（71歳～／女性）

陶芸の里や自然が自慢できる
（41～55歳／女性）

農産物が良い
（56～70歳／女性）

食の文化祭は誇り
（41～55歳／女性）

自然や産物が豊富にある
（71歳～／女性）

食文化や施設にやや満足
（41～55歳／男性）

マイナス意見

自慢するものがないから困っている
（26～40歳／男性）

町で自慢できるものが少ない
（～25歳／女性）

5. 町内外での交流

プラス意見

スポーツ、イベントが充実していた
（26～40歳／男性）

宮崎と中新田に以前も交流があった
（41～55歳／女性）

農家をやっているので集まりが多い
（26～40歳／男性）

町やグループ対抗の体育大会があった
（71歳～／男性）

スポーツ大会など宮崎町内は
スポーツ活動が活発だった
（41～55歳／男性）

地域が一体感をもっていた
充実感を感じた
（41～55歳／女性）

最近からイベントやお祭りを
活発に行うようになった
（56～70歳／女性）

最近になって"食の文化祭"という
素晴らしいお祭りをしている
（71歳～／女性）

観光やイベントが盛んだった
（41～55歳／男性）

食の文化祭は全国的に有名
（26～40歳／女性）

イベントなどに満足している
（～25歳／女性）
（56～70歳／女性）
（56～70歳／女性）

お祭りが良かった
（56～70歳／女性）

"食の文化祭"がある
（71歳～／女性）

祭りやイベントが盛んだった
（71歳～／男性）

マイナス意見

交流が少ない
（～25歳／女性）

6. 町の運営に対する信頼感

プラス意見

小さい町だから人も分かっていた
あの人の話だから行こうとか
（41～55歳／女性）

運営を信頼できた
他の町より協力体制があった
（56～70歳／男性）

信頼していた
（～25歳／女性）

信頼感があった
（41～55歳／男性）

信頼がもてた
（56～70歳／女性）

マイナス意見

財政のやり繰りがうまくいってなかったのでは？
責任感が欠如している
（41～55歳／男性）

町の運営者は自分たちの利益を
優先しているようだった
（26～40歳／男性）

7. 住民がまちづくりに参加する体制

プラス意見

合併前から住民参加のイベントがあった
（41～55歳／女性）

中新田商工会などで意見交換の場があった
（56～70歳／女性）

情報公開が盛んだった
（26～40歳／男性）

情報のつながりは密だった
（41～55歳／女性）

参加型のイベントがある
（41～55歳／男性）

夜の集会がこまめにあった
（41～55歳／女性）

マイナス意見

まちづくりに参加する体制がなかった
（56～70歳／女性）

8. 合併前の周りからのまちのイメージ

プラス意見

コマーシャル、アピールしやすい
宮先町が定着していた
（41～55歳／男性）

イメージが良かった
（～25歳／女性）

悪くなかった
（26～40歳／男性）

マイナス意見

町のイメージが良くなかった
昔は温泉、スポーツ公園など何もなかった
（41～55歳／男性）

イメージが悪かった
（～25歳／女性）

何もアピールできていない
（～25歳／女性）

9. その他

プラス意見

静かで住みやすく犯罪が少ない
自給自足できるので食べ物の心配がいらない
（26～40歳／女性）

いろいろな面で住み心地が良かった
（56～70歳／女性）

環境が良くて住みやすい
（26～40歳／男性）

長年暮らしているし満足している
（56～70歳／男性）

マイナス意見

1. 生活の利便性

プラス意見

本庁舎が家から近くなった点は良い
（41～55歳／男性）

家が中新田寄りだったので
役場が近くなったのは便利
（71歳～／女性）

町が大きくなってでかけるところが広くなった
（～25歳／女性）

役場が近くなったのは便利だが、
役場には知らない人が多く不安に思う。
（71歳～／女性）

道路の道幅が広くなった
（26～40歳／男性）

中新田の図書館が使えるようになった
（41～55歳／女性）

マイナス意見

不便になった
老人ホームがなく学校、大きな病院が遠い
（71歳～／女性）

3つの町が合併し、重複する
施設があり税金の無駄遣い
（～25歳／男性）

役場が遠くて不便
学校がなくて不便
（56～70歳／女性）

宮崎の施設で用がたせなくなったことが多い
車があるといいのだが
（56～70歳／女性）

人が本庁者に集まりすぎである
役場職員相手のそば屋さんも宮崎では減った
（56～70歳／男性）

合併してから道路などの
公共事業が遅れ気味
（41～55歳／男性）

ゲートボールの会場が鮎の里
になって遠くなった
（71歳～／女性）

合併後かえって不便になった
役場が遠くて大変
（41～55歳／女性）

農協関係の用をたすのが不便になった
（71歳～／女性）

中新田中心で宮崎は取り残される
商店街が寂れるのは仕方ないが、
公的な施設がもっとほしい
宮崎は行き止まりの町
（26～40歳／女性）

大事な用事は支所でできないので不便
（56～70歳／男性）

役場が遠くなった
車がないと不便
（～25歳／男性）
（41～55歳／女性）

薬局がなくなって不便
（56～70歳／女性）

交通機関がない
（～25歳／女性）

2. 公的なサービスの充実度

プラス意見

医療関係のサービスが利用しやすくなった
（71歳～／男性）

役場が近くなりサービスが利用しやすくなった
（26～40歳／男性）

ゲートボールに行くとき
宮崎の支所で車を出してくれる
（71歳～／女性）

区長さんが投票所入場券を持ってきてくれていたのが
郵送されてくるようになった
（56～70歳／女性）

マイナス意見

合併後福祉体制について
不透明複雑になった
（56～70歳／男性）

中新田でしか申請できない事がある
交通機関が少ないので車がないと大変
（56～70歳／女性）

支所の機能が十分でない
（26～40歳／女性）
（71歳～／女性）

中新田に一極集中するのは良くない
（41～55歳／男性）

役場の対応が悪くなった
（～25歳／男性）
（41～55歳／男性）

～部門は支所ではできないから本庁
に行かされたりする、と聞いている
（56～70歳／女性）

役場などの公的な施設が遠くなり
すぐにはサービスを受けられない
（56～70歳／女性）

成人式の場所が変わってしまった
支所では用をたせない
顔見知りの職員がいなくなった
宮崎の施設を有効活用してほしい
（71歳～／女性）

役場サービスが不便になった
（71歳～／女性）
（71歳～／男性）

支所で用をたせない。車がない人は大変。検診も中新田である
「子育て支援等が中新田であります」といわれても行けない
（41～55歳／女性）

中新田本庁の人に気軽に相談する事ができない。
（41～55歳／男性）

施設が足りない
（41～55歳／男性）

3. 雇用に対する安心感

プラス意見

マイナス意見

雇用に対する安心感はない
（71歳～／女性）

雇用がなく安心できない
（56～70歳／女性）

雇用に対して不安に思う
（～25歳／女性）

4. 町の自慢できるもの

プラス意見

合併して自慢できる物が増えた
（～25歳／女性）
（～25歳／女性）
（～25歳／男性）
（26～40歳／男性）
（56～70歳／女性）

自然や文化など自慢するものが増えた
（56～70歳／女性）

自慢できるものがある
（41～55歳／男性）

やくらいなど他の2つの町の分自慢できる物が増えた
（41～55歳／男性）
（26～40歳／男性）

やくらい山をはじめとする自然を共有できる
（41～55歳／男性）

マイナス意見

何も変わってない
（26～40歳／男性）

前と変わらない
（56～70歳／女性）

宮崎地区　合併後意見

5. 町内外での交流

プラス意見

以前は中新田のお祭りに他町民は出店できなかったが今はできる
知らない人と知り合うことができる
（41～55歳／女性）

自分の地区のスポーツ大会やクラブなどが
そのまま続いているのは良い
（26～40歳／男性）
（56～70歳／女性）

交流が増えた
仲間意識が芽生えた
（～25歳／女性）
（41～55歳／男性）

婦人会など旧3町の交流がある
（41～55歳／女性）

人が増えたという感じがする
（～25歳／女性）

旧3町のお祭りで広く人に
接する事ができて良い機会
（56～70歳／男性）

お祭りやイベントは今後もうまくやっていけると思うが
どういう体制でやっていくのかはっきりしないところもある
（56～70歳／女性）

合併後、交流できた
宮崎の人が中新田のお祭りに参加できるようになった
（56～70歳／女性）

イベントが大きくなり
交流が深まった
（41～55歳／男性）

お祭り、イベントは3町で交流しやすい
個人的な交流など別な面で人と人とのつながりがある
（41～55歳／男性）

町がにぎやかになり
旧町の枠を越えていろいろなところへ出掛けていこうとする意識が芽生えた
（41～55歳／女性）

マイナス意見

まだいろいろな協会の交わりが足りない
（41～55歳／男性）

宮崎、小野田、中新田のお祭りが一緒になってない
現状では3町別々に開催されている
（41～55歳／女性）

6. 町の運営に対する信頼感

プラス意見

マイナス意見

5月26日の地震のときの対応がひどかった
町の運営に信頼がもてない
議員定数を経費削減のために減らすべき
（71歳～／男性）

行政主体の合併であり住民に不利になっている
合併してほしくなかった
（26～40歳／女性）

まだ宮崎では町長のことが良く知られていない
（71歳～／男性）

信頼感がもてない
合併し周辺部は取り残された気分
職員が転勤で中心部に行ってしまった
（41～55歳／女性）

町政の中心が中新田なので不安がある
（41～55歳／女性）

何をやっているのか全然分からない
（41～55歳／女性）

信頼がもてなくなった
（71歳～／男性）

7. 住民がまちづくりに参加する体制

プラス意見

会合など意見交換の場がある
（41～55歳／女性）
（56～70歳／女性）

夜は家事などで忙しく、会合などがあっても
参加できないので夕方も増やしてほしい
（41～55歳／女性）

地域審議会に期待している
（56～70歳／男性）

活発になってきている
（41～55歳／男性）

マイナス意見

回覧板が月に二回から三回に増えたが
あまりほかの町と密接な関係がない
（56～70歳／男性）

8. 加美町になってからの周りからのイメージ

プラス意見

宮崎の知名度が低かったが
中新田と一緒になりイメージアップした
（26～40歳／男性）

イメージが良くなった
仙台に行っても良い
（56～70歳／女性）

町が大きくなってイメージが良くなった
（～25歳／女性）
（26～40歳／男性）

加美町という名前は気に入っている
（71歳～／男性）
（71歳～／女性）

“町”だからイメージは変わらない
（41～55歳／男性）

思ったよりイメージが上がらなかった
（～25歳／女性）

前とあまり変わらないが
町が大きくなり役場が遠くなった
（26～40歳／男性）

マイナス意見

市にならなかったイメージにより
誘致できる企業が少なくなった
（～25歳／男性）

イメージが悪くなった
（56～70歳／女性）

9. その他

プラス意見

友達が同じ町になった
（56～70歳／女性）

マイナス意見

中新田に若い人をもっていかれた。
無駄な公務員のリストラがあってもいいのでは？
（56～70歳／男性）

宮崎は他の町に比べてバックアップが遅れている
（41～55歳／女性）

合併前に説明されたメリットが
まだ現れていない
（41～55歳／女性）

旧3町のやり方が違うので
なじむまでに時間がかかる
（41～55歳／女性）

1. 職の安心・食の安全

農家をやっているが現状では子供に継げとはいえない
地元に働ける場所を
（41～55歳／男性）

町長は就任したばかりなのでどこまでやってくれるかは分からない
農家の人が自由に販売できる機会や制度をつくってほしい
（41～55歳／女性）

地元に働ける場所を増やしてほしい
（71歳～／男性）

コミュニティビジネスが今後できると良い
（56～70歳／女性）

職を安定させてほしい
（41～55歳／女性）

若い人が職を探し古川や仙台に出て行ってしまう
若者を定着させるため働ける場所を
（41～55歳／女性）

将来の子孫たちのためにも
雇用の活性化をしてほしい
（56～70歳／女性）

働く場所を確保してほしい
農家をやっても赤字
（41～55歳／女性）

雇用を増やす政策をしてほしい
（41～55歳／女性）

雇用環境の整備に力を入れてほしい
（41～55歳／男性）

働ける場所を増やし、農業も振興してほしい
（71歳～／女性）

産業を活性化し、景気がよくなるようにしてほしい
（26～40歳／男性）

勤める職場の確保
（41～55歳／女性）

若い人のための仕事がほしい
（56～70歳／女性）

若くても仕事がないので困る
仕事に対しての安心がほしい
（56～70歳／女性）

農業をやっているので、職の安心を重要視してほしい
（～25歳／男性）

農業を支援してほしい
（41～55歳／男性）
（71歳～／男性）
（71歳～／女性）

農業政策に力を入れてほしい
（56～70歳／男性）

食べ物を作る町だから農産物や自然が大事
（26～40歳／男性）

リストラされている若者の働く場がほしい
（56～70歳／女性）

食べ物を安全に
（26～40歳／女性）

2. 暮らしの安全

現在の自然を今後に残すようにしてほしい
（～25歳／女性）

環境問題に取り組み自然を守ってほしい
（56～70歳／女性）

自然を守ってほしい
（～25歳／女性）
（26～40歳／男性）

ごちゃごちゃしたまちづくりではなく
自然と一体になったまちづくりをしてほしい
（41～55歳／男性）

自然を壊さず大切にして
まちづくりを進めていってほしい
（41～55歳／男性）

あまり開発をすすめるな
ゴルフ場はいらない！
（56～70歳／男性）

自然が減って環境が悪化しないように大切にしてほしい
（～25歳／女性）

今のままの自由な自然を残してほしい
（～25歳／女性）

3. 学ぶ安心

親が子供を見守れる環境を作ってほしい
（41～55歳／女性）

地元に大学を作るなど教育にも力を入れてほしい
（41～55歳／男性）

田舎の子育てを残し田舎の良さを壊さないでほしい。
町に期待していない。町に期待できないので自分たちでやる
（26～40歳／男性）

若い世代のための基盤を固めるために
（～25歳／男性）

4. 生きる安心

障害者・高齢者対策の整備をしてほしい
（41～55歳／女性）

高齢者対策の福祉サービスを充実させてほしい
（56～70歳／女性）

福祉について安心できる町に
（71歳～／男性）

健康な暮らしを支援するまちづくりを
（71歳～／女性）

福祉を充実させてほしい
（56～70歳／女性）

良い環境がないと安心できない
全体的にどれくらいできるか
（41～55歳／男性）

現在、主人と二人暮しだが老後の生活を
安心して送れるようにしてほしい
（56～70歳／女性）

年をとっても安心して暮らしていけるように
（26～40歳／男性）

福祉などを充実させ安心して生きられる町にしてほしい
（41～55歳／女性）

老後の福祉、医療が不安なので
（41～55歳／男性）

福祉を大事にしてほしい
（56～70歳／女性）

安心して暮らしたい
（～25歳／女性）

福祉のサービスや事業に力を入れてほしい
（56～70歳／男性）

若い人が都心部に出てお年寄りが残ってしまう
福祉を向上させ安心して暮らせるまちづくりを
（41～55歳／男性）

5. 心と体の安心

生涯学習で趣味や教養を広げていきたい
（71歳～／女性）

小さい子供がいるので将来に希望をもちたい
（41～55歳／女性）

お年寄りが元気に暮らせるように
（～25歳／女性）

星町長は信頼できる。生涯学習を推進してほしい
（71歳～／女性）

6. 社会生活の安心

交通網や情報通信網が活発になると魅力がでる
（26～40歳／男性）

現時点でさまざまな整備ができていないので
（56～70歳／女性）

交通の便が悪く老人には不便である
地下鉄がほしい
（41～55歳／女性）

道路の整備をしてほしい
生活基盤なので都市整備が重要
（71歳～／男性）

7. 未来への安心

お金がなくて合併したのだから、
行政改革をしてスムーズな行政を行ってほしい
（～25歳／男性）

子供たちや孫たちのしょうらいのためにも財政を改革してほしい
（56～70歳／女性）

これからもここに住んでいけるようにしてほしい
（56～70歳／女性）

町政をまとめていくのは困難である
経費削減のために議員は給料を減らすべきである
余計な施設があるのことも考えるべき
減税してほしい
（26～40歳／男性）

8. その他

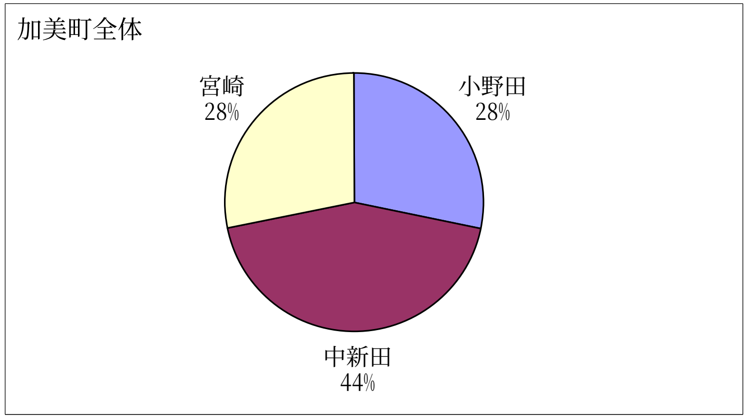
公共サービスや住民の声が届きにくくなるので
あまり大きくなってほしくない
加美町のままでいい
（41～55歳／女性）

合併したからには期待したい
また昔から培ってきた文化や歴史を生かして
地域別にいろいろなことをした方が良い
（71歳～／女性）

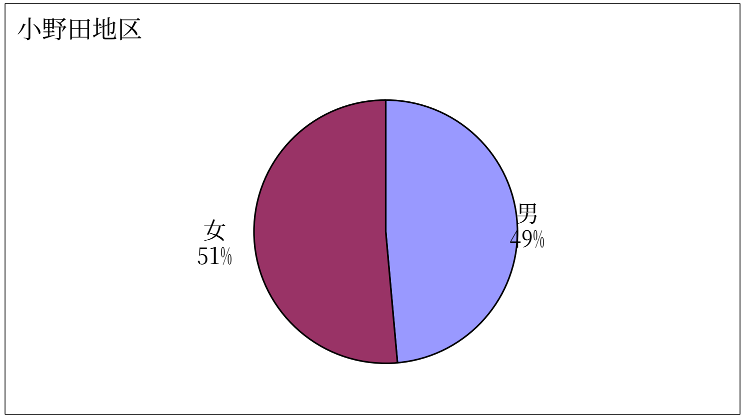
町民みんなが期待をもつことで7つの安心につながればよい
（56～70歳／男性）

中新田の方が宮崎より財政難だったので将来的に不安だが
3町の町民が一体となって発展していくことに期待している
（56～70歳／男性）

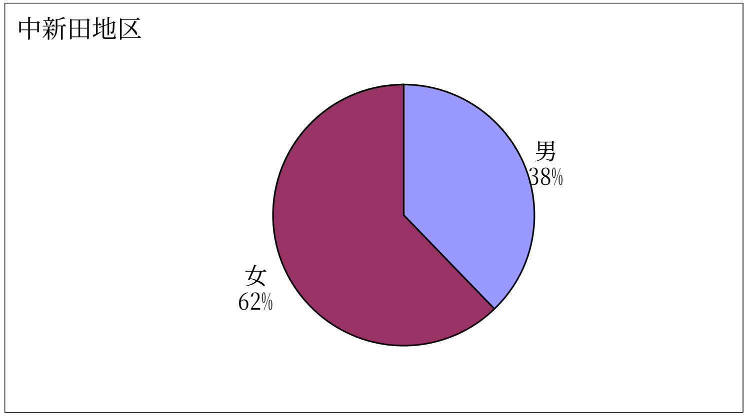
アンケートサンプル数



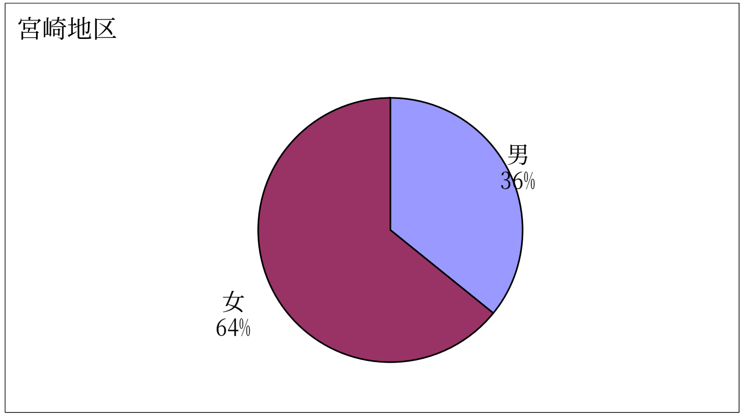
小野田	78人
中新田	119人
宮崎	78人



男	38人
女	40人

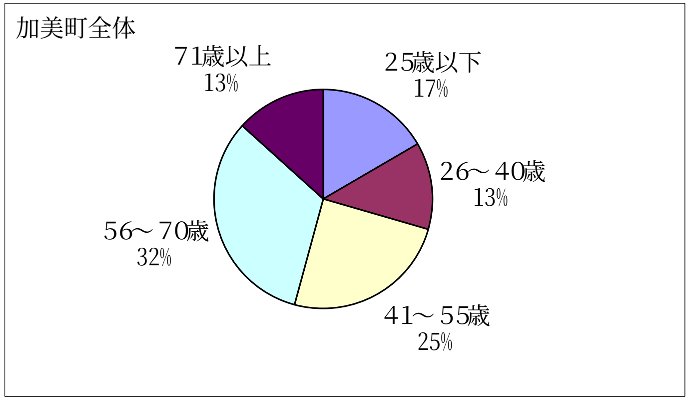


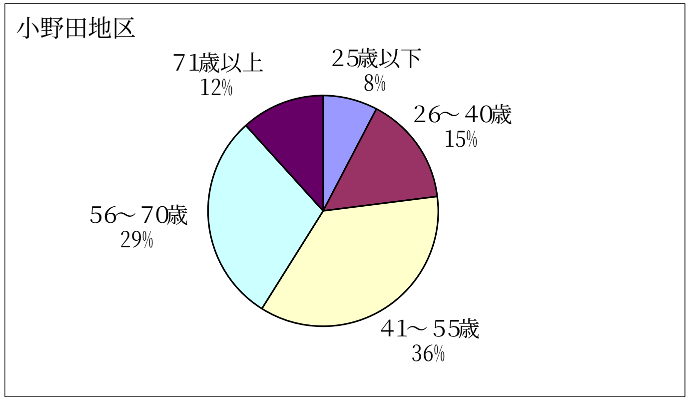
男	45人
女	74人



男	28人
女	50人

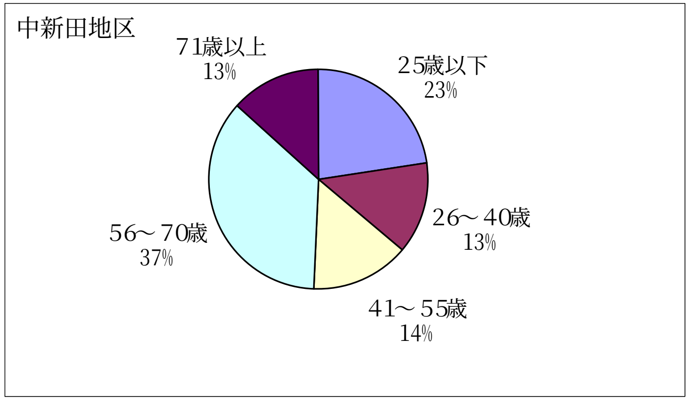
アンケートサンプル年代別割合

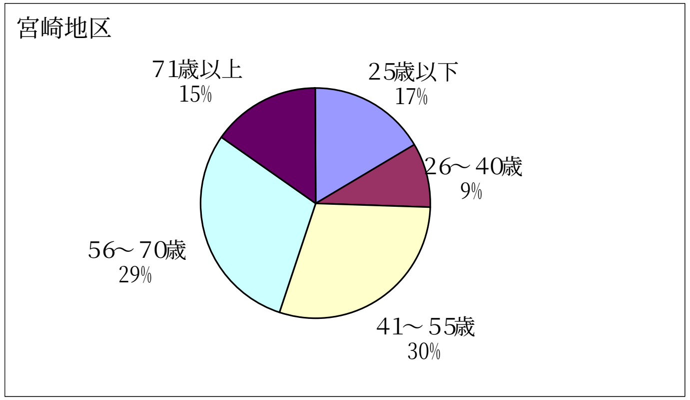




25歳以下	46人
26～40歳	35人
41～55歳	68人
56～70歳	89人
71歳以上	37人

25歳以下	6人
26～40歳	12人
41～55歳	28人
56～70歳	23人
71歳以上	9人

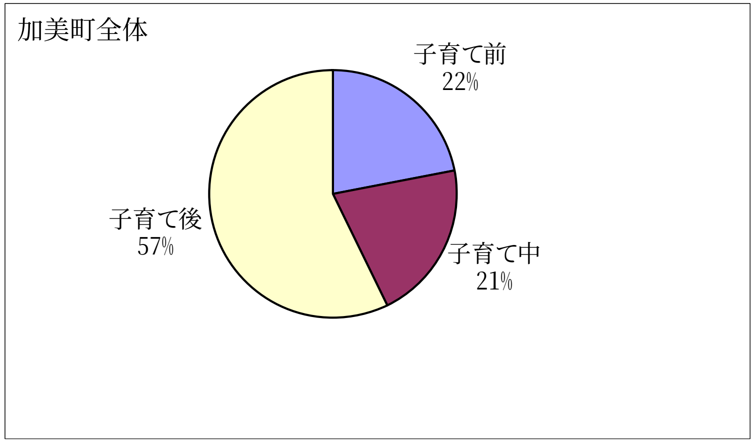




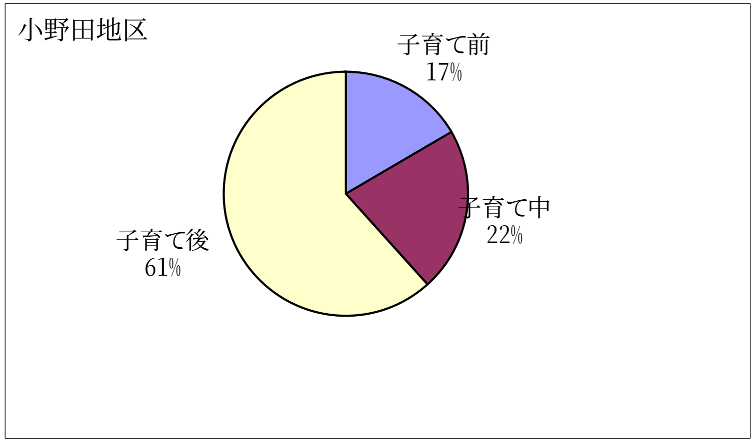
25歳以下	27人
26～40歳	16人
41～55歳	17人
56～70歳	43人
71歳以上	16人

25歳以下	13人
26～40歳	7人
41～55歳	23人
56～70歳	23人
71歳以上	12人

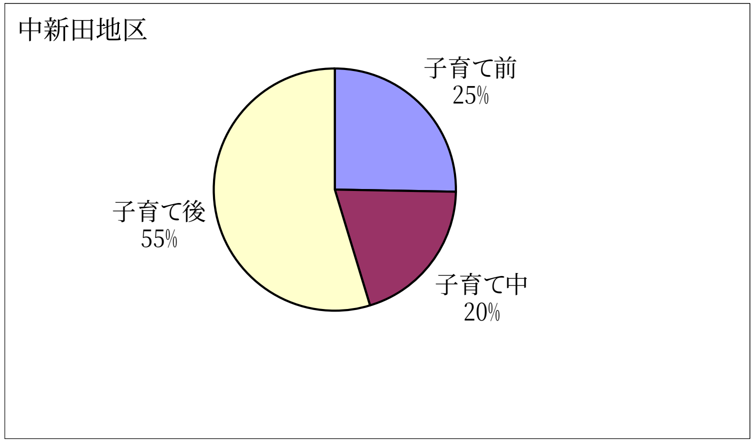
アンケートサンプル子育て別割合



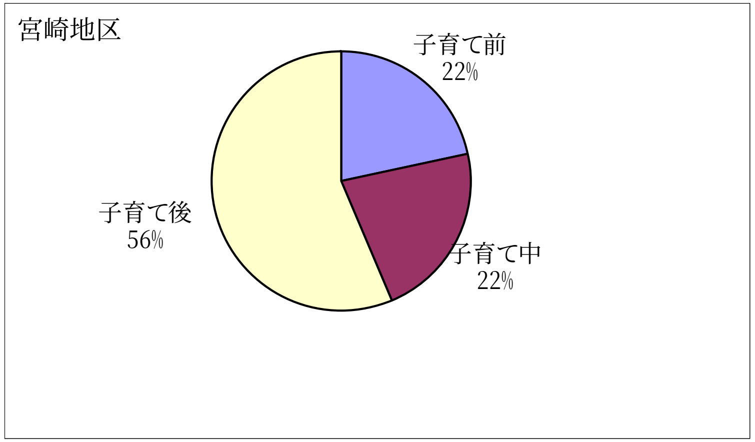
子育て前	60人
子育て中	58人
子育て後	157人



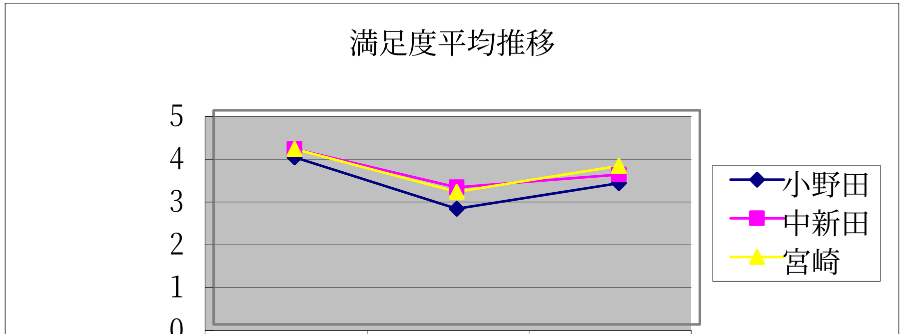
子育て前	13人
子育て中	17人
子育て後	48人



子育て前	30人
子育て中	24人
子育て後	65人

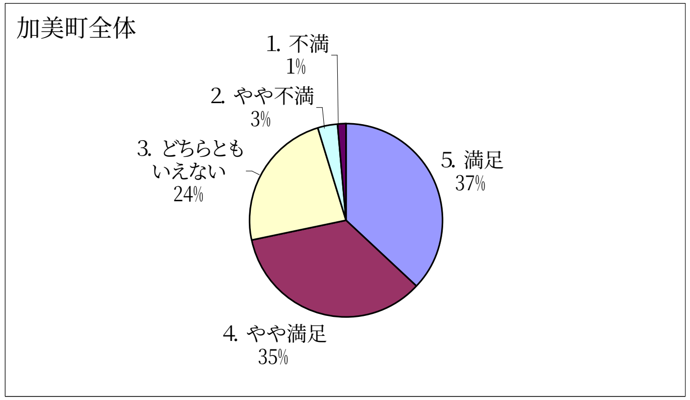


子育て前	17人
子育て中	17人
子育て後	44人

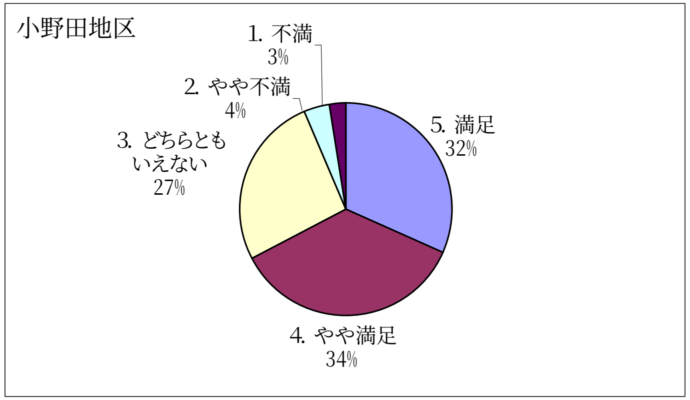


	合併前	合併後	期待度
小野田	3.9	2.7	3.3
中新田	4.1	3.2	3.5
宮崎	4.1	3.1	3.7

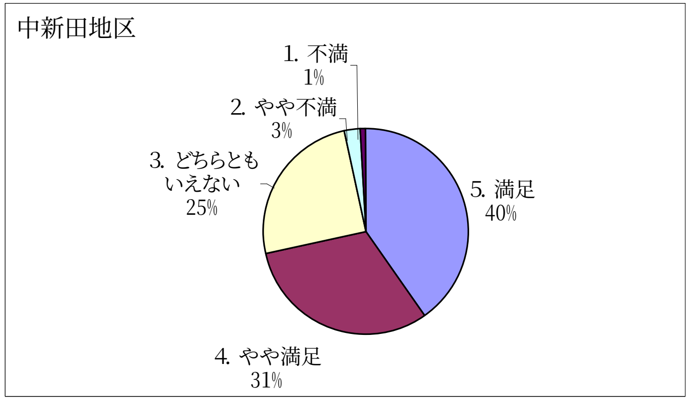
合併前満足度



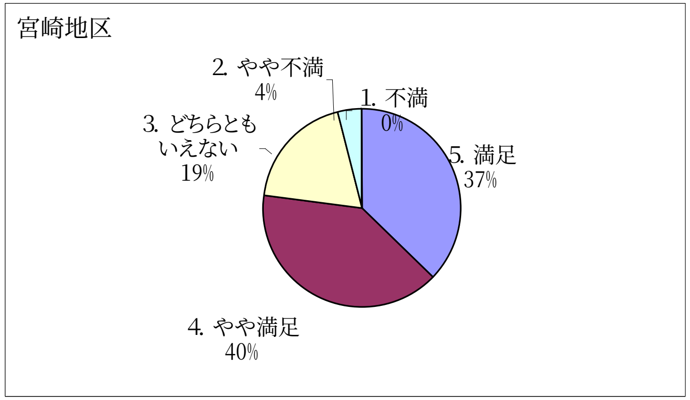
5. 満足	102人
4. やや満足	96人
3. どちらともいえない	65人
2. やや不満	9人
1. 不満	4人



5. 満足	25人
4. やや満足	28人
3. どちらともいえない	21人
2. やや不満	3人
1. 不満	2人

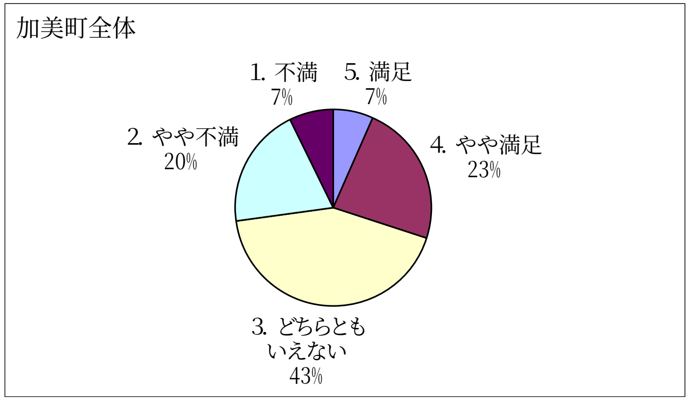


5. 満足	48人
4. やや満足	37人
3. どちらともいえない	30人
2. やや不満	3人
1. 不満	1人

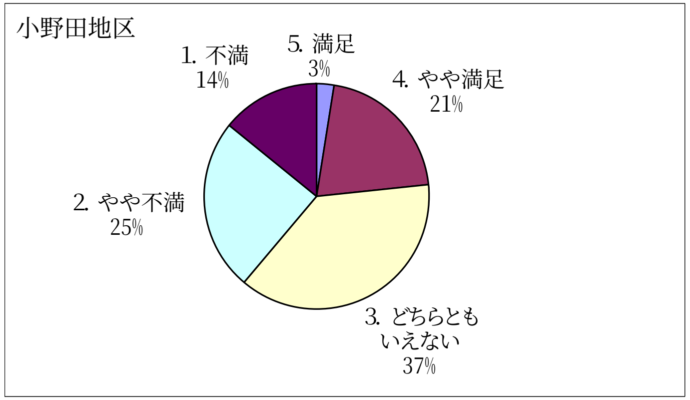


5. 満足	29人
4. やや満足	31人
3. どちらともいえない	15人
2. やや不満	3人
1. 不満	0人

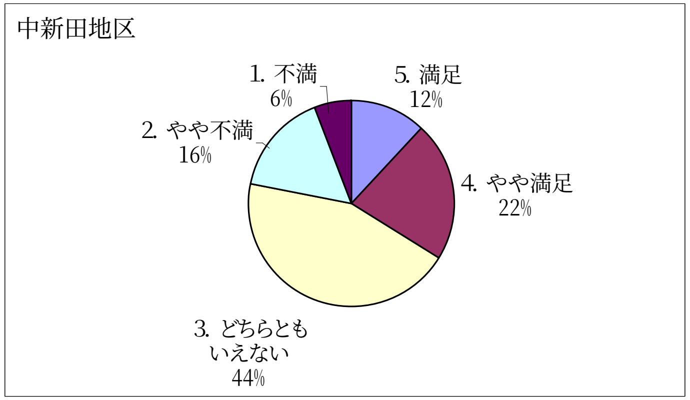
合併後満足度



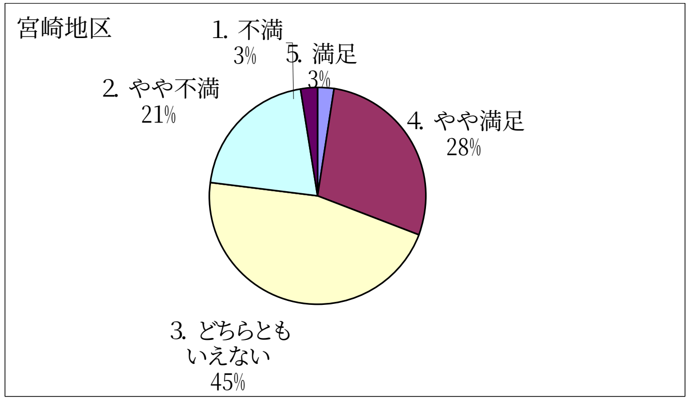
5. 満足	18人
4. やや満足	64人
3. どちらともいえない	117人
2. やや不満	54人
1. 不満	20人



5. 満足	2人
4. やや満足	16人
3. どちらともいえない	29人
2. やや不満	19人
1. 不満	11人

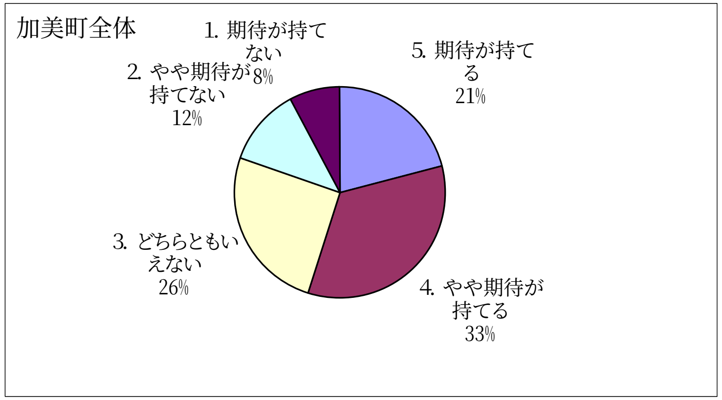


5. 満足	14人
4. やや満足	26人
3. どちらともいえない	52人
2. やや不満	19人
1. 不満	7人

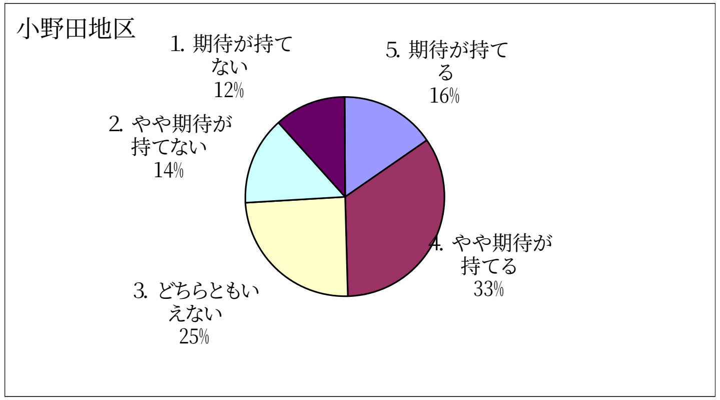


5. 満足	2人
4. やや満足	22人
3. どちらともいえない	36人
2. やや不満	16人
1. 不満	2人

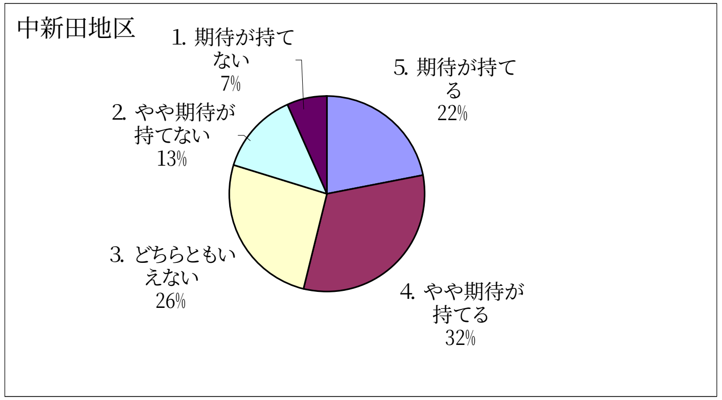
将来への期待度



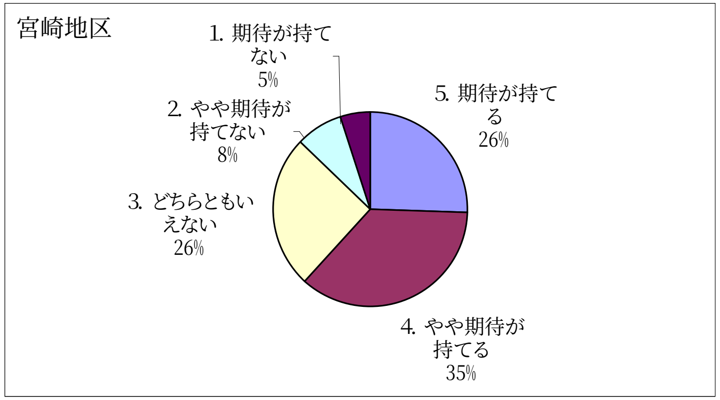
5. 期待が持てる	58人
4. やや期待が持てる	92人
3. どちらともいえない	70人
2. やや期待が持てない	33人
1. 期待が持てない	21人



5. 期待が持てる	12人
4. やや期待が持てる	26人
3. どちらともいえない	19人
2. やや期待が持てない	11人
1. 期待が持てない	9人

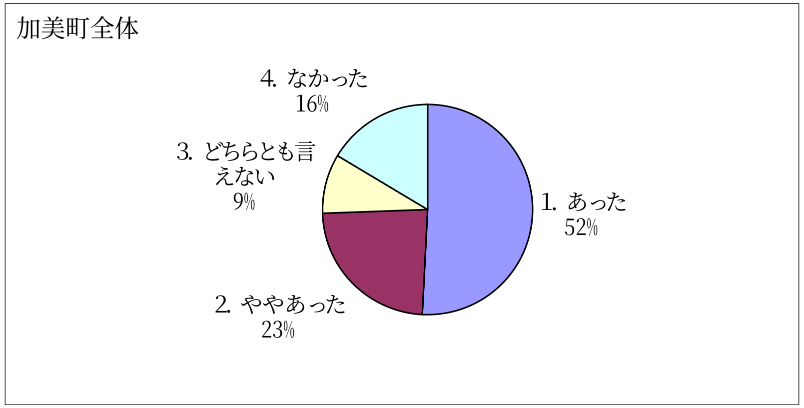


5. 期待が持てる	26人
4. やや期待が持てる	38人
3. どちらともいえない	31人
2. やや期待が持てない	16人
1. 期待が持てない	8人

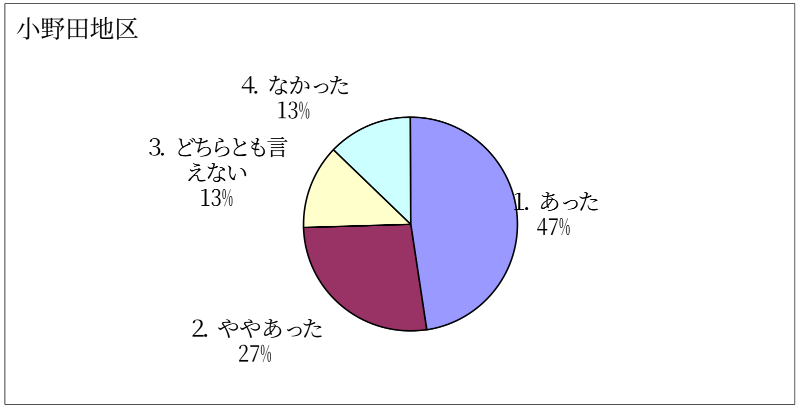


5. 期待が持てる	20人
4. やや期待が持てる	28人
3. どちらともいえない	20人
2. やや期待が持てない	6人
1. 期待が持てない	4人

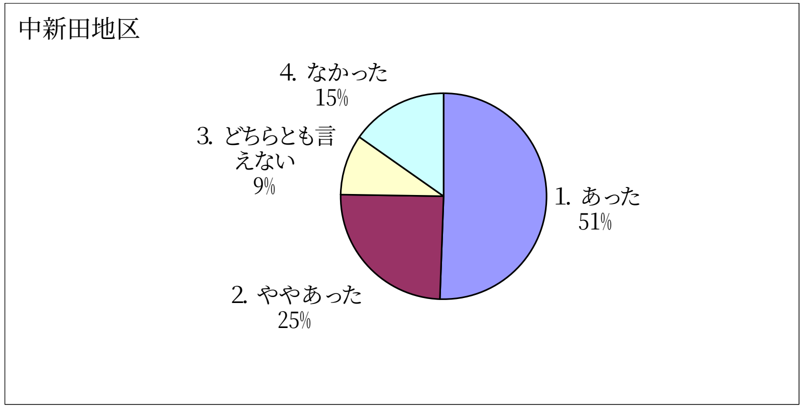
合併に関する関心度



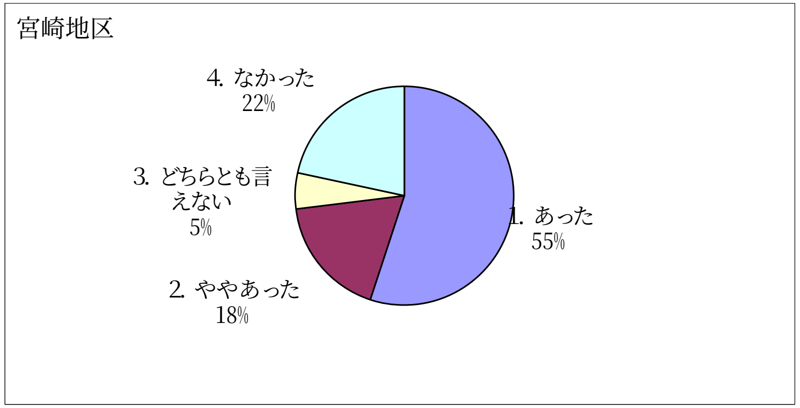
1. あった	139人
2. ややあった	64人
3. どちらとも言えない	25人
4. なかった	45人



1. あった	37人
2. ややあった	21人
3. どちらとも言えない	10人
4. なかった	10人

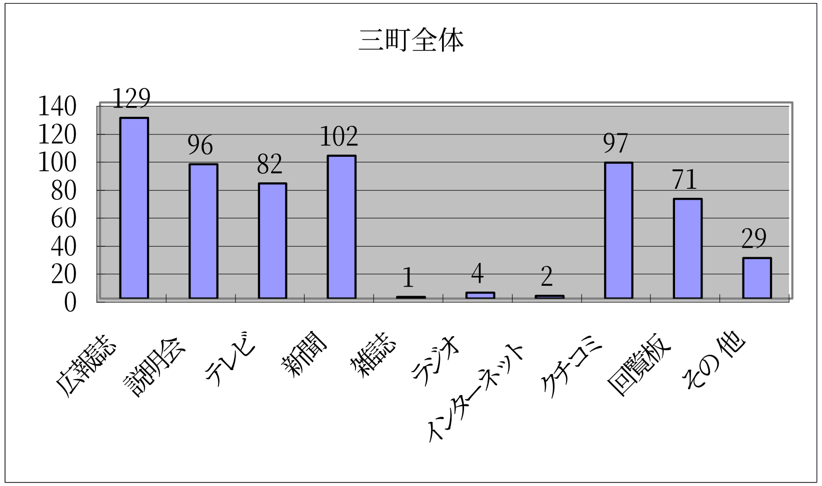


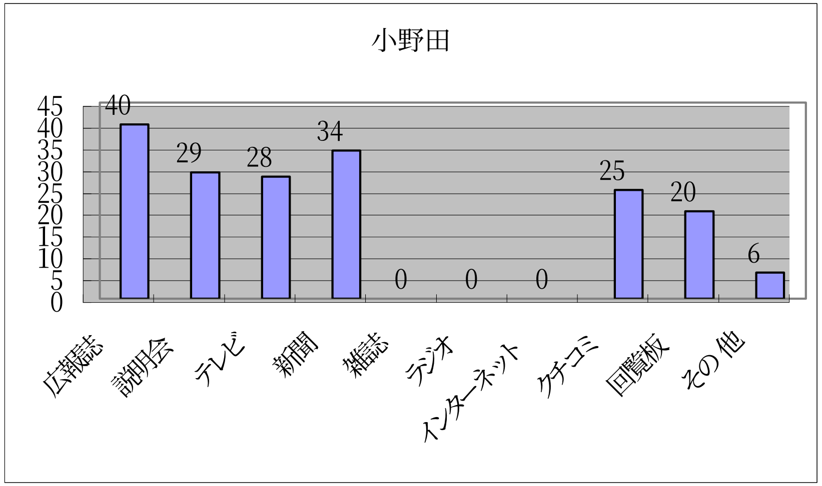
1. あった	59人
2. ややあった	29人
3. どちらとも言えない	11人
4. なかった	18人

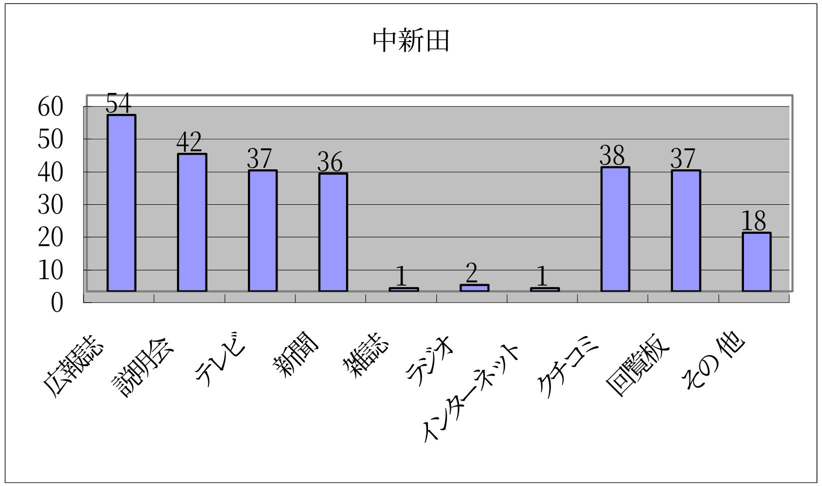


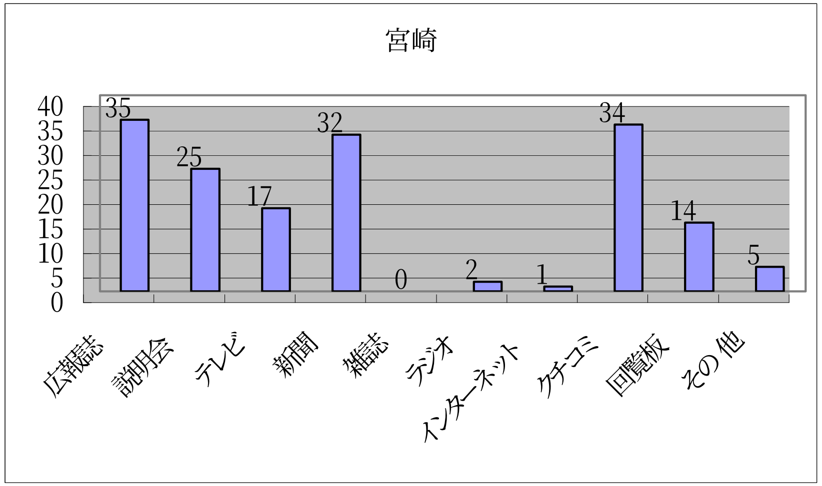
1. あった	43人
2. ややあった	14人
3. どちらとも言えない	4人
4. なかった	17人

合併に関する情報入手の手段









単位（人）

おわりに

今回の提言書は加美町の町民の方に対して、私たちグループでアンケート調査の結果をもとに、まとめたものである。今後さまざまな施策が実行されることによって、満足度を始めとして住民の意見の変化がおきることは十分に考えられる。

私たちとしては加美町や今後合併する自治体に対し、住民の意見に応え住民が満足するような施策が行われ、住民に対する満足度調査を継続的に実施するよう切に希望する。

活動記録

6月 10日　第一回ミーティング　市町村合併班を組織

↓ 合併について学習、問題点の把握　ヒアリング項目の検討

8月 7日　古川市役所において合併をこれから行う古川市の柏倉氏へヒアリング

↓ ヒアリング項目の検討

9月 5日　河北新報中新田支局の方へヒアリング

↓ ヒアリング項目の検討

9月 25日　加美町役場において加美町の星町長へヒアリング

↓ 調査結果の仮説をもとにしたアンケート項目の検討

11月 1日、2日　小野田公民館・宮崎陶芸の里スポーツ公園総合体育館にてアンケート調査実施
11月 7日、8日　中新田バッハホールにてアンケート調査実施

↓ アンケートの集計分析　問題解決策・まちづくり提案の策定

2月中旬　完成

加美郡 3町合併に伴う住民満足度向上への提言

～彩食弦美タウン構想～

担当教授　久恒啓一

宮城大学顧客満足ゼミ 製作者名簿

石田真由美　木村咲栄　草間由黄子　小松敏成　近藤誠朗

佐々木雄介　白石健一　菅井信也　マンリー・チャンドラ　津田麻美

今回の調査・提言が加美町やこれから合併する自治体の方々に
活用して頂ければ幸いです。
また、私たちの調査に御協力頂いた方々へこの場を借りてお礼申し上げます。

連絡先

〒981-3298　宮城県黒川郡大和町学苑1番

久恒啓一研究室TEL&FAX　022-377-8269

Eメール　hisatune@myu.ac.jp